

Annals of the Fukuyama City University Extension Center

ISSN 2186-8255

福山市立大学教育研究交流センター

年 報

vol.6
2016

Annals of the
FEC
Extension
Center
U

2016年度（平成28年度）教育研究交流センター年報の発刊にあたって

福山市立大学 教育研究交流センター長

正保 正恵

本学の教育研究交流センターは、開学と同時にスタートを切って丸6年となりました。

今年度は、6大学連携の2年目となり、備後圏域にある6大学（尾道市立大学、県立広島大学、福山大学、福山平成大学、福山職業能力開発短期大学校、福山市立大学）が集まり、備後圏域の知のステップアップのために議論を続けています。スタートを切った昨年よりも、より緊密に議論を深め、備後地域にとって意味のある6大学連携をめざして進めております。

また、教育研究交流センター主催の公開講座は、大学が広く一般に知見を広める場でもあり、引き続き、当センターの重要な活動の場であり続けております。

今年度につきましては、視点を大学の重要な役割である「知の実践」という共通テーマで、全6回の公開講座を開催してまいりました。普段の生活では知ることのない、専門的で興味深いテーマを様々な側面から取り上げ、新たな世界の再発見につなげていただくことを目的として、様々なジャンルで活躍されている方を講師としてお招きしました。

昨年4月に熊本で大きな地震が起き、その直後の6月に開かれた「巨大地震の巣 南海トラフを解剖する」では、直前の申し込みが殺到し、我が国の大きな課題に対する市民の皆様に関心の深さを痛感しました。

共通テーマで実施する公開講座とは別に、国際交流としての講座や、特別講演会も大きな関心を寄せていただきました。

さらに、本学教員の専門分野を活かした、少人数で体験型のワークショップも5年目を迎え、多くの参加者に喜んでいただきました。

そのほか、4回目となる「ふくやまサイエンスフェスティバル」は、ますます人気が高まる事業となっています。

これら当センターの活動の成果を取りまとめ、年報として記録に残すことといたしました。これも学内外の多くの方の支援の賜物であり、改めて感謝申し上げる次第です。

来年度のラインナップも決まりつつあり、自信を持って新年度を迎えたいと思っています。

今後とも、皆様のご意見やご要望も踏まえながら、創意工夫を凝らして活動内容を充実させていく所存ですので、来年度以降も引き続きご協力いただきますようお願い申しあげ、発刊のご挨拶といたします。

目次

CONTENTS

教育研究交流センター年報の発刊にあたって

事業報告

1 事業実績	-----	1
2 特別講演会実施報告書	-----	3
3 公開講座実施報告書	-----	15
4 ふくやまサイエンスフェスティバル	-----	33
5 ワークショップ実施報告書	-----	40
6 共同研究報告書	-----	61
7 活動記録	-----	64

参考資料

福山市立大学教育研究交流センターの概要	-----	65
福山市立大学教育研究交流センター規程	-----	67

事業報告

■ 事業実績

(1)特別講演会

共通テーマで実施する公開講座とは別に、特別講演会も実施しました。
2016年度（平成28年度）は、次のとおり、外部講師を招き4回の特別講演会を実施しました。

テーマ	講 師		実施日時	実施場所	参加人数 (人)
島田荘司・知念実希人 対談会	島田 荘司 知念 実希人	作家 作家	5月14日(土) 14:30～15:30	本学 大講義室	111
特別企画 びんご圏域6大学の2015年度人気講座紹介	島谷 康司 有瀧 真人 伊藤 憲孝 酒井 晴雄 渡邊 一成	県立広島大学保健福祉学部 理学療法学科教授 福山大学生命工学部 海洋生物科学科教授 福山平成大学福祉健康学部 こども学科准教授 福山職業能力開発短期大学校 能力開発部長 福山市立大学 都市経営学部教授	5月21日(土) 14:00～17:00	本学 大講義室	48
国際交流 国際協力の現場から学んだ「支援しない支援」 ～ 南アジア・東アフリカで実践した対話型のファシリテーション技術 そして 南の国の支援されるおばちゃんたちの本音と建前の見分け方 ～	原 康子	ムラのミライ認定対話型 ファシリテーショントレーナー	7月9日(土) 14:00～15:30	本学 大講義室	133
自動車の倫理学 ー 都市・生活空間の変貌、利己主義の肥大	杉田 聡	帯広畜産大学教授	12月1日(木) 13:10～14:40	本学 大講義室	152
			合 計	年間4回	444

(2)公開講座

福山市立大学では、広く知識や情報を市民の皆様に公開していくために、公開講座を実施しています。
開学6年目である2016年度（平成28年度）の公開講座の共通テーマは、「知の実践」でした。国内外で活躍されている方による「知」を知り地域活性化を目的とした講演を実施し、多くの方に聴講していただきました。

テーマ	講 師		実施日時	実施場所	参加人数 (人)
巨大地震の巣 南海トラフを解剖する	木村 学	東京海洋大学・特任教授	6月18日(土) 14:00～15:30	本学 大講義室	137
源平合戦と瀬戸内海	美川 圭	立命館大学教授	7月16日(土) 14:00～15:30	本学 大講義室	272
新しい交通政策「モビリティ・マネジメント」と 福山市における取り組みの紹介	福山市 都市交通課 渡邊 一成	福山都市圏交通円滑化総合計画推進 委員会 福山市立大学都市経営学部教授	8月6日(土) 14:00～15:30	本学 中講義室A	51
ミャンマーにおける高等教育と 産業人材育成の課題と可能性	荒木 義宏 上別府 隆男	一般財団法人国際貿易投資研究所客 員研究員 福山市立大学都市経営学部教授	10月15日(土) 14:00～15:30	本学 中講義室A	25
絵本と紙芝居の作り方	きたむら さとし	絵本作家・イラストレーター	11月19日(土) 14:00～15:30	本学 大講義室	83
入院中の子どもと家族をサポートする チャイルド・ライフという仕事	藤原 彩	広島大学病院 チャイルド・ライフ・スペシャリスト	12月10日(土) 14:00～15:30	本学 中講義室A	62
			合 計	年間6回	630

※公開講座は福山商工会議所が後援しています。

(3)ふくやまサイエンスフェスティバル

小学生を主な対象として、楽しみながら体験し学べる「ふくやまサイエンスフェスティバル」を開催しました。国内有数の実験名人を招き様々なサイエンスショーを行い、本学教員と小学校などの理科の先生、地元企業・団体が協力し、実験・展示ブースを設けました。また、科学実験のほかに地元企業企画として工作機械の実機体感運転やペットボトルをリサイクルしたプラスチック板を加工したり、ジャガイモの保存方法の違いでジャガイモの味の差を確認したりしたほか、ナマズの粉末の入ったお菓子の試食など各種プログラムを行いました。

行事名	講 師	実施日時	実施場所	来場者数 (人)
ふくやまサイエンスフェスティバル	本学教員や小学校教員，地元企業や外部講師ほか	9月24日(土) 10:00～15:00	本学中庭	1,500

(4)ワークショップ

本学教員が専門分野を活かし、一般市民が参加・体験するワークショップを実施しました。

テーマ	講 師		実施日時	実施場所	参加人数 (人)
ふくやまの伝統芸能「二上りおどり」	大庭 三枝	教育学部准教授	7月30日(土) 10:00～11:30	とおり町交流館	10
Practical activities and teaching ideas for active English communication classes!	Stephen Hampshire	都市経営学部講師	10月8日(土) 10:00～12:00	本学 小講義室A	9
ヨガ	西崎 裕美	非常勤講師	10月22日・29日 全2回 11:00～12:30	本学 実技演習室	36 延べ人数
はじめる絵画講座 ～ 調子を変えて描くデッサン ～	渋谷 清	教育学部教授	10月22日(土) 13:00～16:00	本学 図画工作室	11
日本の伝統文化 「こぎん刺繍」の理解と技術の伝承	山本 百合子	非常勤講師	11月1日から 11月22日まで 全3回 10:00～12:00	本学 図画工作室	35 延べ人数
日本の伝統食品 野菜と乾物でつくる色とり豊かな 副食の色々 ～ 一口知識と調理技術の継承 ～	倉田 美恵	非常勤講師	11月5日(土) 10:00～13:00	本学 家庭科調理室	17
まちをつくらうワークショップ ～ 店舗の模型を作る ～	高橋 美佳	非常勤講師	11月5日(土) 14:00～17:00	本学 小講義室B	8

2 特別講演会実施報告書

[illegible]

特別講演会 島田荘司・知念実希人 対談会

講師：島田 荘司（作家）
知念 実希人（作家）

日時：2016 年（平成 28 年）5 月 14 日（土） 14：30～15：30

場所：本学 大講義室

《開催趣旨》

福山市出身のミステリー作家であり、「島田荘司選 ばらのまち福山ミステリー文学新人賞」選者でもあるミステリー界の巨匠・島田荘司さんと、同賞出身の人気作家・知念実希人さんの創作活動に迫ります。

《対談会での様子》

島田：知念さんは福ミスを受賞され、今一番本が売れている人。この対談はひとつの夢でした。今年は福ミスの応募作が 100 を超えるという快挙を達成しました。そこまで福ミスが育ってきたというのは大変嬉しいことです。

知念：福ミスの応募作が 100 作を超えたのは感慨深いことです。福ミスは地方の主催する文学賞のため敬遠されがちかもしれないが、中央の文学賞よりデビューする確率が遥かに高い素晴らしい賞だと Twitter でも言っているの、そういう草の根的な宣伝が奏功して知名度が上がったのかなと。

島田：確かにデビューの確立は高いかもしれませんが。受賞作のほかに優秀作も出していますし。そして、福ミスはアットホームな賞です。中央の賞ではないくらい、みんなが和気あいあいとしている。

《会場からの質問》

知念さんへ「なぜ福ミスに応募したのか？戦略はあったのか？」

知念：戦略というか、受賞を狙っていると言うよりも、島田先生からの選評が欲しかった。長くなりすぎて他の賞に出せなかったというのと、最終選考に残れば島田先生からとても細かい選評がいただけるので、もしこの作品が受賞しなかったとしても、出してみる価値はあるかなと思った。それで受賞したのでとてもびっくりしました。



島田さん（左）と知念さん（右）



会場の様子

2016年度(平成28年度) 特別講演会「島田莊司・知念実希人 対談会」開催結果報告

1. 日時 2016年(平成28年)5月14日(土) 14:30～15:30

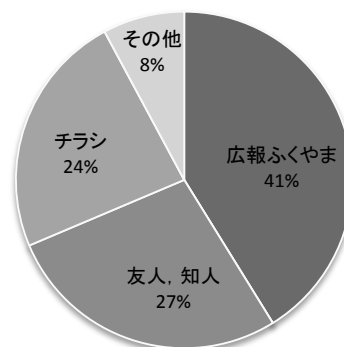
2. 場所 本学 大講義室

3. 参加者	事前申込(人)	参加(人)	参加内訳			参加率
			事前申込	当日申込	スタッフほか	
	105	111	105	0	6	100%

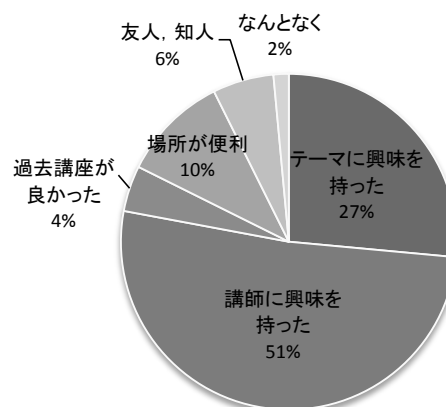
4. アンケート集計結果	回収(枚)	回収率
	48	46%

アンケート項目

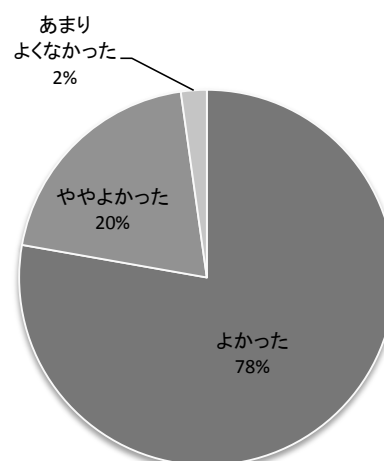
1.この講座を何で知りましたか(複数回答)	
広報ふくやま	21
本学のホームページ	0
友人, 知人	14
公共施設に配布してあるチラシ	12
本学からの郵便でのご案内(DM)	0
その他	4
ツイッター	(3)
リビングふくやま	(1)



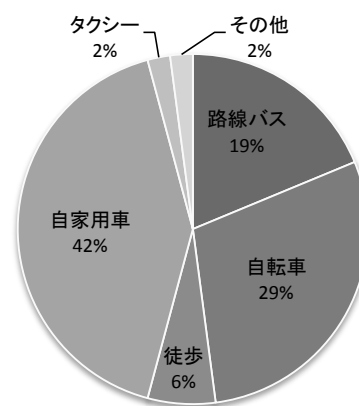
2.この講座になぜ参加しようと思われましたか(複数回答)	
テーマに興味を持ったから	18
講師に興味を持ったから	35
過去に受講した講座が良かったから	3
実施場所が便利だから	7
友人, 知人に勧められて	4
なんとなく	1
その他	0



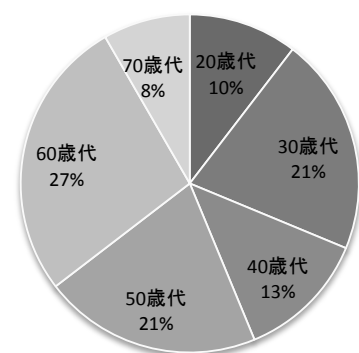
3.この講座を受けてどう思われましたか	
よかった	35
ややよかった	9
あまりよくなかった	1
よくなかった	0



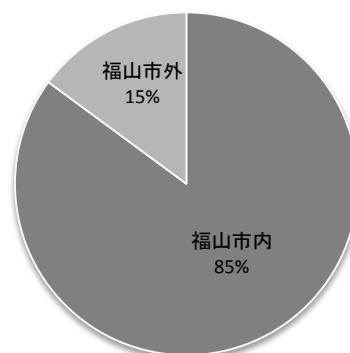
4.来学のおもな交通手段は何でしたか	
路線バス	9
自転車	14
徒歩	3
自家用車	20
タクシー	1
その他	1
JR	(1)



5.年齢	
10歳代	0
20歳代	5
30歳代	10
40歳代	6
50歳代	10
60歳代	13
70歳代	4
80歳以上	0



6.お住まい	
福山市内	40
福山市外	7



特別企画「びんご圏域 6 大学の 2015 年度人気講座紹介」

講師：島谷 康司 県立広島大学保健福祉学部理学療法学科教授
有瀧 真人 福山大学生命工学部海洋生物科学科教授
伊藤 憲孝 福山平成大学福祉健康学部こども学科准教授
酒井 晴雄 福山職業能力開発短期大学校能力開発部長
渡邊 一成 福山市立大学都市経営学部教授

日時：2016 年（平成 28 年）5 月 21 日（土） 14:00～17:00

場所：本学 大講義室

昨年度から始まった備後圏域にある 6 大学連携シリーズの第 2 弾として、5 月 21 日、特別企画「びんご圏域 6 大学の 2015 年度人気講座紹介」を開催し、人気の高かった講座の講師から直接紹介をしていただきました。紙面の都合により、概要のみを紹介します。

■「根拠に基づいた、母体ケアを含めた赤ちゃんの発達支援を実践する」

（島谷 康司 県立広島大学保健福祉学部理学療法学科教授）

人間は、自分の身体を知ることにより適応行動ができることにつながる。赤ちゃんも、既に胎児期から母体や自分の身体に触れることによって発達を促している。

■「豊穡の海ー瀬戸内海のつくり育てる漁業と恵みー」

（有瀧 真人 福山大学生命工学部海洋生物科学科教授）

瀬戸内海の浅海域では、埋め立てによる干潟や藻場の消失が漁場環境に大きな影響を及ぼしている。増殖事業である栽培漁業は、瀬戸内海が発祥の地で、資源の持続的な利活用に資するものである。

■「ジョン・ケージ～音と沈黙のはざま」

（伊藤 憲孝 福山平成大学福祉健康学部こども学科准教授）

前衛芸術の革命児であるジョン・ケージについて、自らトイピアノで演奏し、彼の伝統的な西洋音楽へ反旗をひるがえした経緯のお話や、「4 分 33 秒」という無音の音楽では沈黙から何かを感じることが大事であると解説。

■「3D プリンターで何ができるのか」

（酒井 晴雄 福山職業能力開発短期大学校能力開発部長）

高度で創造性豊かな職業能力を有した実践技術者の育成に取り組んでいる大学であり、社会人向けに公開講座も多く実施している。3D プリンターは図面さえ描ければ誰にでも使うことができ、子どもたちに造形する発想力を養うこととなる。

■「熱き心を持った技術者たち～国土・地域づくりで新しい価値を創造する～」

（渡邊 一成 福山市立大学都市経営学部教授）

土木の語源は「築土構木」で、社会や地域を良くすることを使命として、技術者は国土・地域づくりのプロデューサーの役割を果たしてきた。社会資本をめぐる昨今の社会経済情勢は量から質的向上が求められており、今後の技術者の役割を考えるうえで、群馬県草津町の事例を紹介。

最後に各大学の Outreach 担当者の皆さんから、公開講座の取組や大学間連携の意義などについて語っていただいた。

2016年度(平成28年度) 特別企画「びんご圏域6大学の2015年度人気講座紹介」開催結果報告

1. 日時 2016年(平成28年)5月21日(土) 14:00～17:00

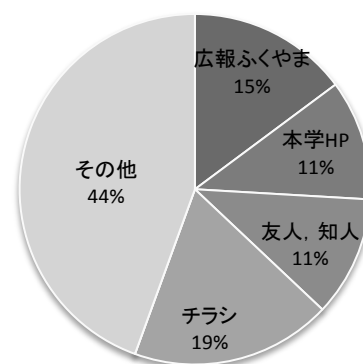
2. 場所 本学 大講義室

参加者	事前申込(人)	参加(人)	参加内訳			参加率
			事前申込	当日申込	スタッフほか	
	34	48	25	11	12	74%

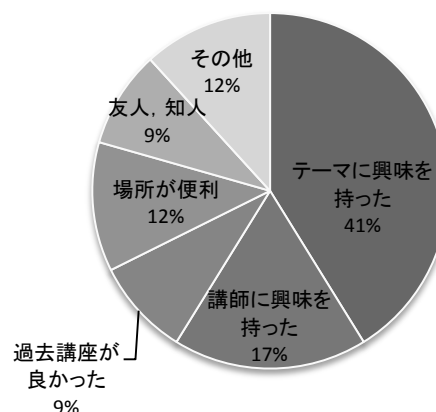
4. アンケート集計結果	回収(枚)	回収率
	26	72%

アンケート項目

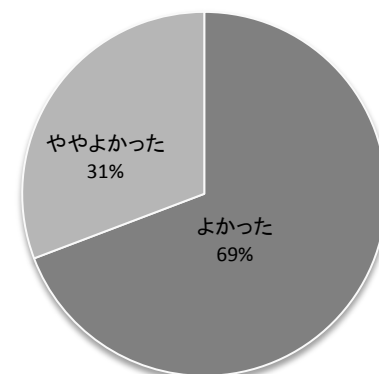
1.この講座を何で知りましたか(複数回答)	
広報ふくやま	4
本学のホームページ	3
友人, 知人	3
公共施設に配布してあるチラシ	5
本学からの郵便でのご案内(DM)	0
その他	12
授業で聞いたから(福山市立大学)	(8)
福山大学からの案内	(2)
関係者から	(2)



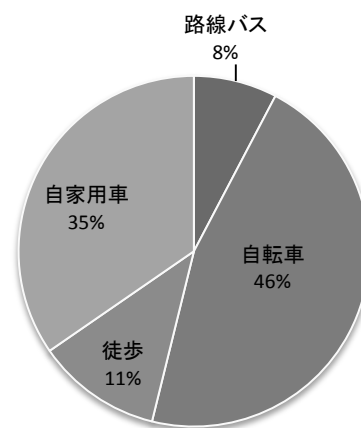
2.この講座になぜ参加しようと思われましたか(複数回答)	
テーマに興味を持ったから	14
講師に興味を持ったから	6
過去に受講した講座が良かったから	3
実施場所が便利だから	4
友人, 知人に勧められて	3
なんとなく	0
その他	4
無記入	(4)



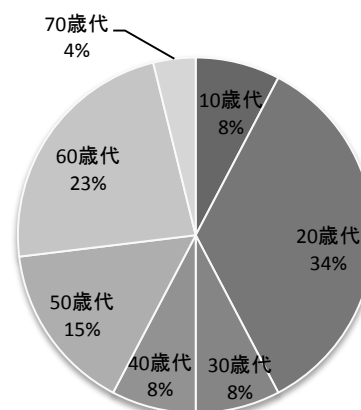
3.この講座を受けてどう思われましたか	
よかった	18
ややよかった	8
あまりよくなかった	0
よくなかった	0



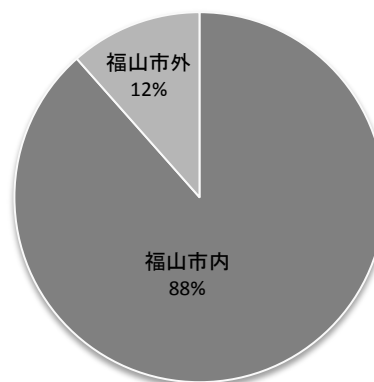
4.来学のおもな交通手段は何でしたか	
路線バス	2
自転車	12
徒歩	3
自家用車	9
タクシー	0
その他	0



5.年齢	
10歳代	2
20歳代	9
30歳代	2
40歳代	2
50歳代	4
60歳代	6
70歳代	1
80歳以上	0



6.お住まい	
福山市内	23
福山市外	3



国際協力の現場から学んだ「支援しない支援」

～ 南アジア・東アフリカで実践した対話型のファシリテーション技術

そして 南の国の支援されるおばちゃんたちの本音と建前を見分け方 ～

講師：原 康子（ムラのミライ認定対話型ファシリテーショントレーナー）

日時：2016 年（平成 28 年）7 月 9 日（土） 14：00～15：30

場所：本学 大講義室

■講演趣旨

講師の原さんが、「貧しい国の人たちの自立を支援したい！」と 20 代で国際協力の世界へ飛び込み、以来 16 年間、アジア・アフリカでのお節介な仕事で身につけた「支援しない技術＝対話型ファシリテーション」。当日は「あまり振り返りたくない失敗話満載で、福山の皆さんにご紹介する」という趣旨で講演していただきました。

講演会はプロジェクターが起動しないというアクシデントから始まりました。講師の原さんが臨機応変にユーモア溢れる対応で、大変興味深い自己紹介から始まり、大学院時代の話、最近のネパールでの被災経験に基づく話など、国際協力の初心者にもわかりやすい導入部でした。

インドでの活動について動画を使用して、コメントを交えながらインドの女性による信用金庫に係る活動を紹介してもらい、大変元気なインドの女性たちとのやりとりを実感することができました。

原さんにとっての国際協力の実践の始まりは、インドのビジャカパトナムでのプロジェクトで、「お土産」をもたずにスラムの「おばちゃん達」の話を聞くことでした。「あなたはどんな支援をしてくれるの」という現地の人々からの質問に、当初は答えられなかったそうです。その経験から、対話型ファシリテーションの技術を習得しました。いわゆる“はずまない会話”を“はずむ会話”にするには？なぜ、会話がはずまないのか？

例えば、こんな会話をしたことありませんか？テストの結果を子どもに聞く場面。

親：「テストの結果、どうだった？」、子ども：「ビミョー」など。

「どうだった？」ではどうにもならない、ということです。「どうだった？」を、「いつ、何、誰、どこ」に会話を置き換えるのが大事です。例えば、「今日の朝の授業は何だったの？」などです。また、「できなかったこと」から聞かないで「何ができたの？」という本人にとって自信があることから聞くのも大事です。これらを実践すると、どんどんとその人の「現実」（本当に話したかったこと）にたどり着くことができます。

「なぜ、できなかったのか」と聞くと人は言い訳を始めます。人間の自己防衛本能が働くのです。

①「お休みの日は何をするのが好きですか？」②「お休みの日はいつも何をしますか？」③「先週のお休みに何をしましたか？」のうち、「事実」を聞いているのはどれでしょう？「事実」と「気持ち」などを混同してしまいがちです。答えは③です。①は感情、②は意見です。

インドでは自助組織グループに対話型ファシリテーションを使うと、実際の様子が見えてきました。

対話型ファシリテーション（メタファシリテーション）では、基本は 1 対 1 の対話です。簡単な事実質問を通して一人一人の現実を知ることからスタートし、相手に気づきを促しながら問題を解決するために必要な行動変化を当事者自ら起こすように働きかける手法です。まず事実質問から、いつ、どこで、何、誰と、と始め、相手の気持ちに共感しながら対話をしていくことをインドで学びました。

最後に、講師が活動している「ムラのミライ」の活動の紹介です。最初のモットーは、「魚を与えるのではなく、魚の取り方を教える」でした。その後、「その魚、ホントに必要？」と疑問を持つようになりました。今のモットーは「コミュニティ、環境、経済のバランスのとれた社会」です。このモットーにしたがって、例えば、「出稼ぎしなくても、よい暮らし」（セネガル）などの活動を行っています。

2016年度(平成28年度) 国際交流「国際協力の現場から学んだ」支援しない支援」開催結果報告

1. 日時 2016年(平成28年)7月9日(土) 14:00～15:30

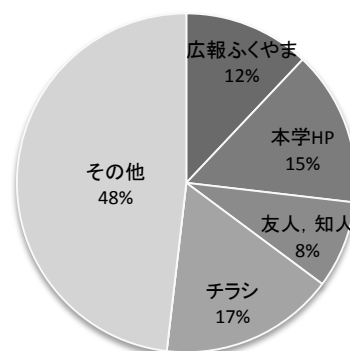
2. 場所 本学 大講義室

3. 参加者	事前申込(人)	参加(人)	参加内訳			参加率
			事前申込	当日申込	スタッフほか	
	127	133	108	17	8	85%

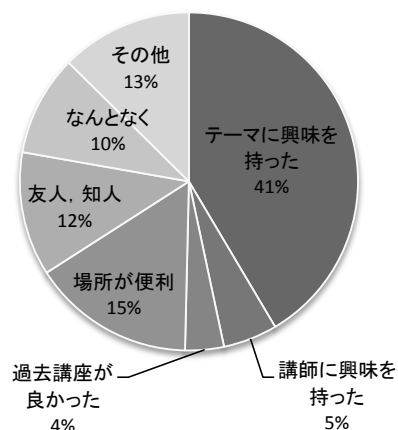
4. アンケート集計結果	回収(枚)	回収率
	105	84%

アンケート項目

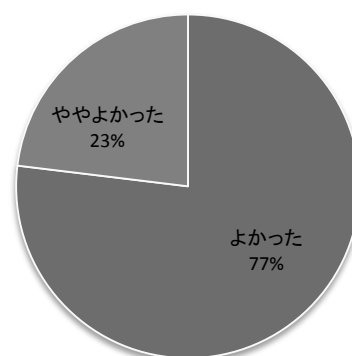
1.この講座を何で知りましたか(複数回答)	
広報ふくやま	13
本学のホームページ	16
友人, 知人	9
公共施設に配布してあるチラシ	18
本学からの郵便でのご案内(DM)	0
その他	52
講義で紹介された	(52)



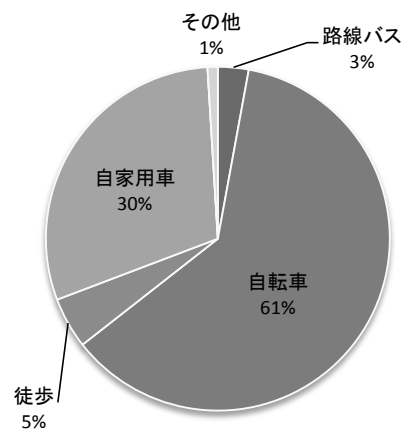
2.この講座になぜ参加しようと思われましたか(複数回答)	
テーマに興味を持ったから	56
講師に興味を持ったから	7
過去に受講した講座が良かったから	5
実施場所が便利だから	21
友人, 知人に勧められて	16
なんとなく	13
その他	17
先生の勧め	(17)



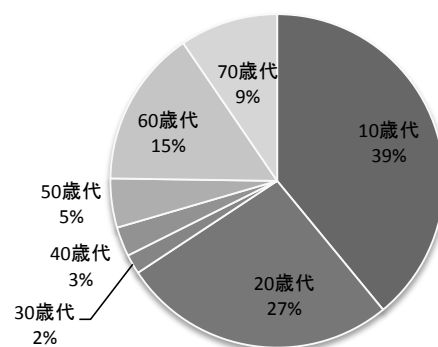
3.この講座を受けてどう思われましたか	
よかった	80
ややよかった	24
あまりよくなかった	0
よくなかった	0



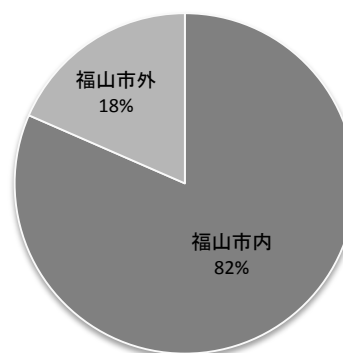
4.来学のおもな交通手段は何でしたか	
路線バス	3
自転車	64
徒歩	5
自家用車	31
タクシー	0
その他	1
バイク	(1)



5.年齢	
10歳代	41
20歳代	28
30歳代	2
40歳代	3
50歳代	5
60歳代	16
70歳代	10
80歳以上	0



6.お住まい	
福山市内	84
福山市外	19



特別講演会 自動車の倫理学―都市・生活空間の変貌，利己主義の肥大

講師：杉田 聡（帯広畜産大学教授）

日時：2016 年（平成 28 年）12 月 1 日（木） 13：10～14：40

場所：本学 大講義室

講演要旨

今日、子どもまで含めて全人口の 4 人に 3 台の車両（原付を含め）がある。この数十年、過剰なモータリゼーションが着実に進行してきた。

公共交通機関・商店街の衰退

それがもたらす影響は大きい。かつて日本の津々浦々を走っていた鉄道（JR）は、今や幹線・新幹線が残るだけである。バスの衰退も激しい。30 年前と今日とを、講演者が生活する帯広市で比較すると、例えば大学前バス停を通過するバスは、一日 49 本だったものが今やわずか 3 本であり、土日は 27 本あったものがいまはゼロである。大都市の郊外でも、類似した現象が起きている。

過剰モータリゼーションとともに、多くの都市から商店街が消えつつある。自動車利用を通じて市民の購買行動は徐々に変化しつつあったが、いまや遠隔の大規模店まで自動車によって買い物に行くのが当然となった。これを後押ししたのは、1980 年代からの数度にわたる規制緩和である。商店街が衰退した今、高齢者の労苦は増している。買い物の帰りは小さくない荷物を持ち、時に雨・風、暑さ・寒さ等の悪条件にさらされる。おまけに歩く空間には、命を脅かす移動物体（自動車）が行き来する。買い物に難儀する高齢者には、栄養不足の問題が発生している（フードデザート問題）。

子どもにもたらされた危険・失われる道の社会的機能

子どもの「お使い」は、成長のための不可欠の要件であった。これによって子どもは、社会の成り立ちを知ると同時に一定の社会性を身につけたが、いま道路はあまりに危険であり、とても子どもを「お使い」に出せない。道は危険に満ちており、いまでも毎年 100 人近い子ども（車両乗車中を除く）の命が奪われ、3 万人近い子どもが身体に損傷を負わされている。そしてモータリゼーションによって、道を含めた遊び場は都市では 40 分の 1 に減った。

またモータリゼーションは、道が本来もっていた住民にとってのコミュニケーション機能を失わせた。交通量が増えるほど住民が道を出歩く可能性が減り、他の住民とのコミュニケーションの機会が減っている。

利己主義の肥大

人は自らの利益のためにハンドルを手にする。一方、自動車利用がもたらすマイナス面は外部にもたらされる。自己利益を追求指向して他者を犠牲にすることは、真正のエゴイズムである。深刻なのは、歩行者にとって一挙手一投足が明暗を分けることである。たった一つの間違いも、命の棄損に直結する。

こうなると、運転者にとって「殺すな」「傷つけるな」が基本的な道徳となる。これは異常な事態である。哲学者カントは、近代的道徳に反する行為・態度として虚偽、高慢、陰口、愚弄をあげた。人をあやめること・傷つけることは、もはや反道徳的な行為として記されることさえない。それを思えば、基本的な道徳が「殺すな」「傷つけるな」に収斂することは、異常な事態である。それが基本的な道徳となると、他者に恐怖・脅威を与えることはおろか、他者に水や泥をはねホコリをあびせてその衣服や心を汚すことさえ、一顧だにされなくなるであろう。

個々人において利己主義が疑われず、その社会的集積が社会全体を利己主義へと方向づけると、自動車利用全体によって良好な空間が奪われ、緑地が喪失し、子どもの遊び場がなくなり、商店街や公共交通が衰退し、少なくない人の命が奪われても、社会はそこに何の痛みも感じなくなるであろう。

2016年度(平成28年度) 特別講演会「自動車の倫理学 ― 都市・生活空間の変貌, 利己主義の肥大」
開催結果報告

1. 日時 2016年(平成28年)12月1日(木) 13:10~14:40

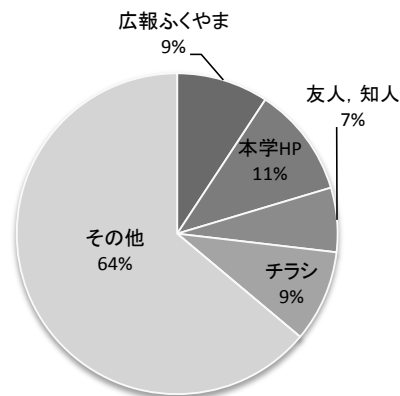
2. 場所 本学 大講義室

参加者	事前申込(人)	参加(人)	参加内訳			参加率
			事前申込	当日申込	スタッフほか	
	197	152	136	8	8	69%

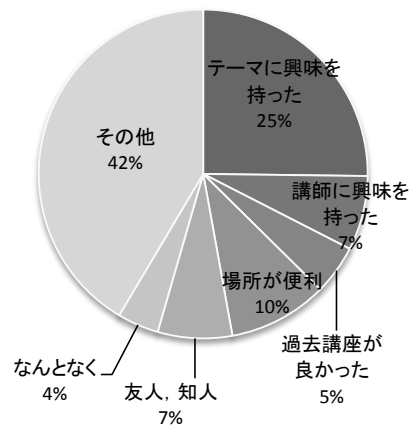
回収(枚)	回収率
106	74%

アンケート項目

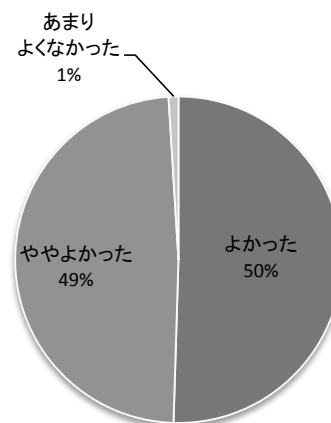
1.この講座を何で知りましたか(複数回答)	
広報ふくやま	10
本学のホームページ	12
友人, 知人	7
公共施設に配布してあるチラシ	10
本学からの郵便でのご案内(DM)	0
その他	69
先生から	(69)



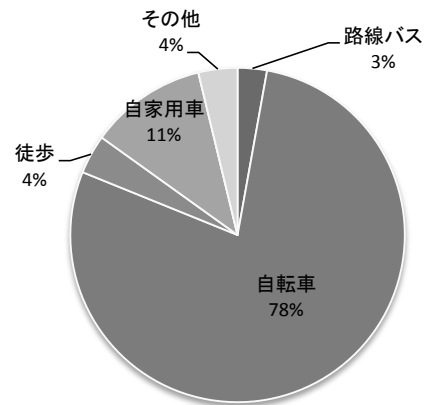
2.この講座になぜ参加しようと思われましたか(複数回答)	
テーマに興味を持ったから	31
講師に興味を持ったから	9
過去に受講した講座が良かったから	6
実施場所が便利だから	12
友人, 知人に勧められて	9
なんとなく	5
その他	51
授業	(51)



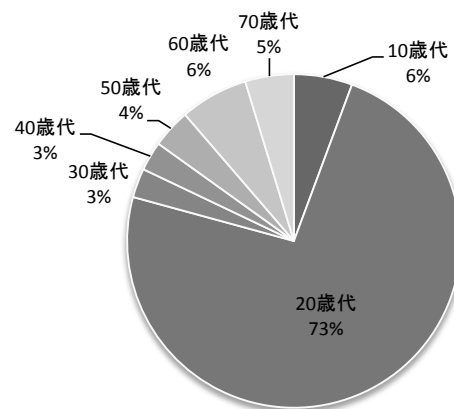
3.この講座を受けてどう思われましたか	
よかった	52
ややよかった	50
あまりよくなかった	1
よくなかった	0



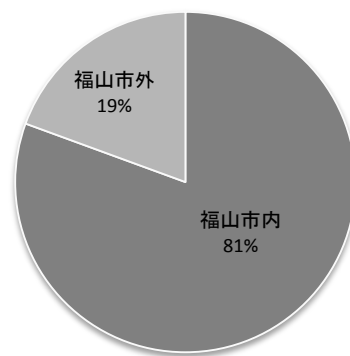
4.来学のおもな交通手段は何でしたか	
路線バス	3
自転車	83
徒歩	4
自家用車	12
タクシー	0
その他	4
JR	(3)
バイク	(1)



5.年齢	
10歳代	6
20歳代	78
30歳代	3
40歳代	3
50歳代	4
60歳代	7
70歳代	5
80歳以上	0



6.お住まい	
福山市内	83
福山市外	20



知の実践① 巨大地震の巣 南海トラフを解剖する

講師：木村 学（東京海洋大学特任教授）

日時：2016 年（平成 28 年）6 月 18 日（土） 14：00～15：30

場所：本学 大講義室

1）巨大地震と南海トラフ

20 世紀に入ってから超巨大地震といわれるものは 14 回起きている。つまり 10 年弱に 1 回の割合で地球のどこかで起きている。その際に津波が発生するが、そのほとんどが環太平洋地域で起きている。過去チリで地震が起ると 28 時間後に日本に津波が到達した。

南海トラフ付近では、1944 年と 1946 年に南海地震が起こり、1944 年 12 月は紀伊半島を中心に大地震、津波が襲った。これは終戦前だったので、超一級の国家秘密として被災者以外は日本中誰も知らなかった。

1946 年の地震は、高知沖の南海トラフが震源で地震と津波が襲った。高知はお城の辺りを除いて全部水没。この南海地震の前は 1854 年、ペリーが日本にやってきて開国を要求した頃である。これから昭和の地震までちょうど 90 年で間隔は最短である。さらに前は 150 年前の 1707 年で、このときは富士山が大爆発する。

火山灰は江戸の町まで届き、規模が大きかった。南海地震が起きると富士山も噴火するという経験。もうすでに昭和の南海地震から 70 年経ち、今世紀中には必ず来るだろうと地震学者も思っており、すべての対応をとったほうが良い。政府の公式発表も 30 年以内におこる確率 70%としているから、現在、四国など海岸に接している県は超緊張状態にある。

2）日本列島の動き

日本列島がどのくらいの速さで動いているのか、今では実測されている。昔はこんなことはできなかった。1995 年に阪神淡路大震災が起こり、地震学者に対して、地震予知できなかったという批判が上がった。これに対し、観測網の希薄さをカバーし、精度を上げるために日本列島中に地震計と新しい技術である GPS をつけた。これは汎地球測位システムの略で、米国の軍事用のシステムの転用である。4 つの静止衛星を使って位置確認をする。これが可能になったのは 1990 年代後半である。GPS を使うと日本列島が、時々刻々動いているのがわかる。地面の動くスピードは 1 年間に 1cm～10cm だが、地震のときには一気に日本列島が動く。その速度は秒速 1m～10m くらい、すなわち時速 3.6km～36km、おそくとも人間の歩くスピードからマラソンランナーの走る速度くらいで震えながら動く。100 年～150 年に 1 回あるいは、じわじわだったのが、地震の時には、ひずみがたまったのが我慢できずに跳ねる。地震を繰り返す基本的な原因はプレートテクトニクスの理論で、1967 年～68 年に統一的に理解されるようになった。地震も大地が動いていることが原因だということがわかってきた。

地球の表面を覆う岩盤をプレートと呼ぶが、地球は膨らむことができないのでどこかで潜っていく。そのときに地震が起きて同時にマグマが発生してそれが噴く。日本列島には深い海溝があり、後ろ側に火山がある。これはプレートの動きが原因だとわかった。1967 年がこの理論が完成した年といわれている。我々が住んでいる場所は、地震も火山も避けられない。太平洋のプレートが沈み込んでいくというところに我々は住んでいる。10 数枚の岩石の板が地球を覆っていると考えられ、日本周辺は 4 つのプレートで説明されてきたが、最近の実測データからアムールプレート、オホーツクプレートの存在を提案しているところである。それによって阪神や新潟の地震も説明することができる。

3）南海トラフの調査

船の上から強烈なエアガン（水の中に圧力の空気を放出するもの）を放出して、跳ね返ってくる波を回収して全部重ねてみると地下が透けて見える。南海トラフの南側、フィリピン海プレートが沈んでいる様子がわかってきた。浅いところでも深いところでも、なにやらヌルヌル滑っているところが発見された。周りが滑れば滑るほど歪みがたまってくる。まわりでゆっくり滑っているのは非常に危険な兆候である。さらに地球深部探査船「ちきゅう」を使い、海底の岩盤を掘削することによって海底の様子が詳しく解明されてきた。

2016年度(平成28年度) 公開講座「巨大地震の巣 南海トラフを解剖する」開催結果報告

1. 日時 2016年(平成28年)6月18日(土) 14:00～15:30

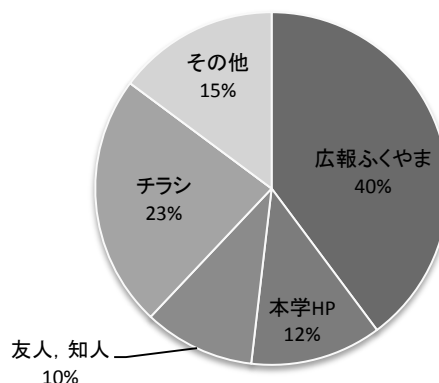
2. 場所 本学 大講義室

参加者	事前申込(人)	参加(人)	参加内訳			参加率
			事前申込	当日申込	スタッフほか	
	112	137	101	29	7	90%

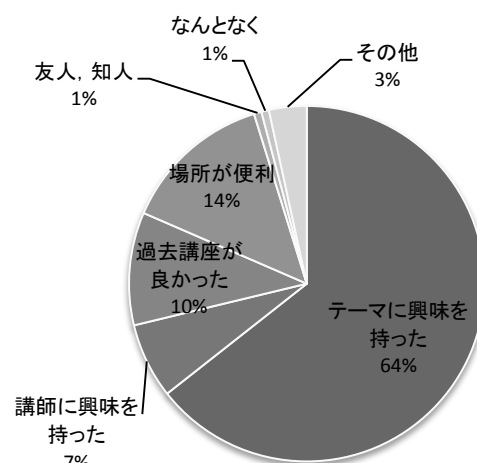
回収(枚)	回収率
102	78%

アンケート項目

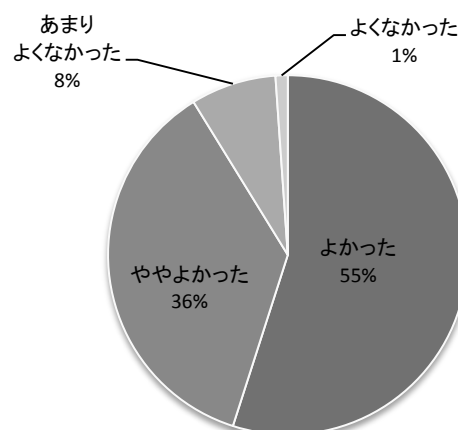
1.この講座を何で知りましたか(複数回答)	
広報ふくやま	43
本学のホームページ	13
友人, 知人	11
公共施設に配布してあるチラシ	25
本学からの郵便でのご案内(DM)	0
その他	16
先生の紹介	(8)
新聞	(5)
市自治連役員会で知った	(1)
無記入	(2)



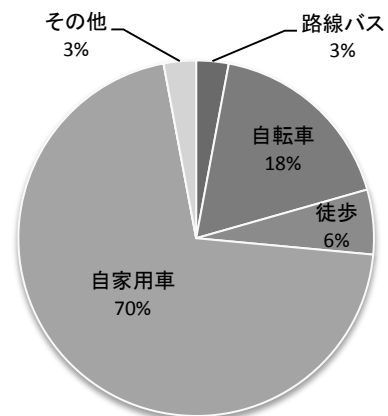
2.この講座になぜ参加しようと思われましたか(複数回答)	
テーマに興味を持ったから	94
講師に興味を持ったから	10
過去に受講した講座が良かったから	15
実施場所が便利だから	20
友人, 知人に勧められて	1
なんとなく	1
その他	5
瀬戸内海の近くに市自治会学区連合会があるから	(1)
福山市立大学を見たかったから	(1)
先生の資格を持っているので	(1)
仕事で地震波データのデジタル化など 従事したことがあるので	(1)
講座に興味がありできるだけ参加していきたい	(1)



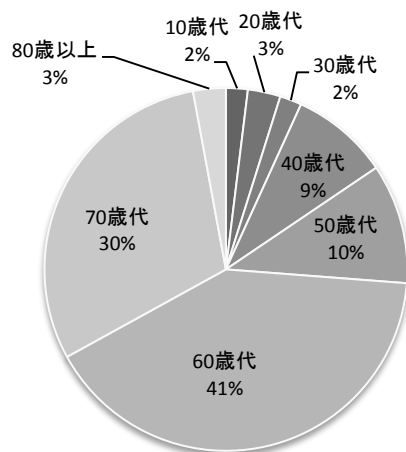
3.この講座を受けてどう思われましたか	
よかった	50
ややよかった	33
あまりよくなかった	7
よくなかった	1



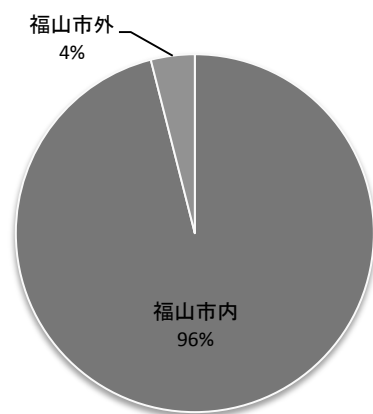
4.来学のおもな交通手段は何でしたか	
路線バス	3
自転車	18
徒歩	6
自家用車	72
タクシー	0
その他	3
バイク	(2)
送迎	(1)



5.年齢	
10歳代	2
20歳代	3
30歳代	2
40歳代	9
50歳代	11
60歳代	42
70歳代	31
80歳以上	3



6.お住まい	
福山市内	97
福山市外	4



知の実践② 源平合戦と瀬戸内海

講師：美川 圭（立命館大学文学部教授）

日時：2016 年（平成 28 年）7 月 16 日（土） 14：00～15：30

場所：本学 大講義室，中講義室 A

講演要旨

源平合戦のなかで、瀬戸内海沿岸をおもな舞台とした 3 つの合戦をとりあげた。とくに、これらの合戦は『平家物語』の記事で有名となるが、そこには少なからぬ虚構が含まれている。軍記物語である『平家物語』を検証し、より信頼できる史料を利用して、歴史的事実に迫った。

（１）一の谷の合戦

前年の治承 5 年（1181 年）清盛を病で失っていた平家は、寿永 2 年（1183 年）7 月の木曾義仲軍の攻撃によって、安徳天皇とともに都落ちする。しかし、その後京都では義仲と後白河法皇が対立、その間に平家がしだいに勢力を回復して旧福原京（現神戸市）までもどってくる。翌年正月、義仲が鎌倉軍の攻撃で滅亡した直後、2 月に鎌倉軍（源氏）が平家を破った戦いである。一般には「鴨越えの坂落とし」で有名だが、実際にはかつての福原京の地域を回復した平家軍に対し、三方から源氏軍が攻撃した大規模な戦いであった。大手軍は源範頼を大將軍としており、山陽道を西進し、生田の森を攻撃した。搦め手軍は源義経を大將軍としており、丹波路を進み、丹波・播磨国境の三草山で平資盛らを破り、播磨国印南野から山陽道を東進した。さらに、山手から多田行綱が率いる一隊が、福原中心部の背後から攻撃をしかけた。一の谷は義経軍が進撃したルートにあり、鴨越えはこの行綱の進撃ルートであり、両者は別のものであった。『平家物語』はこの 3 つの戦場を圧縮し「一の谷合戦」という虚構を作り出したと考えられている。

（２）屋島の合戦

一の谷の合戦後、伊勢・伊賀の平氏が蜂起したため、義経は京都に張り付く。平家は屋島と長門を拠点として、瀬戸内海の制海権を確保していた。その後、範頼軍は頼朝の命令で陸路西国・九州へ向かい、備前藤戸合戦で平家を破ったため、平家は瀬戸内海の制海権を失う。しかし、範頼遠征軍も、兵糧米の不足と兵士の士気低下で苦戦を強いられる。元暦 2 年（1185 年）2 月、ついに義経は四国の平家拠点壊滅をめざし、摂津渡辺から出航し、阿波勝浦に上陸する。同国住人近藤親家を味方につけ、平家腹心の桜庭義遠を破る。義遠は平家重臣田口成良の弟であった。成良の支援で、平家は屋島を確保していた。すでに義遠敗北の段階で、平家は大きな打撃をうけていた。義経は放火戦術によって、屋島を攻撃する。平家の総帥宗盛は戦わずして、屋島の内裏を放棄し、海上へ逃れた。範頼軍の遠征によって山陽道・九州への上陸は不可能となっていたため、平家は本州最西の彦島に追いつめられる。

（３）壇ノ浦の合戦

元暦 2 年（1185 年）3 月、義経軍 3,000 艘が満珠島・仙寿島付近に集結した。一方 3 km 離れた彦島に集結した平家軍は 500 艘（『吾妻鏡』）700 艘（『延慶本平家物語』）1,000 艘（『覚一本平家物語』）と諸説あるが、いずれにせよ義経軍より遙かに劣勢であった。戦いは『吾妻鏡』『平家物語』が午前中に終了とするが、正午に開始され夕刻に終了したとする『玉葉』の記事の信憑性が高い。また、大正期の黒板勝美説以来、潮流の変化を予測し利用した義経の軍事的天才を強調するが、潮流がもっとも穏やかな時間に合戦が行われたのが真相である。平家の敗因は、潮流予測と利用などではなく、開戦時における圧倒的な劣勢である。この戦いで、安徳天皇とその祖母平時子（故清盛妻）は海に沈む。平宗盛・清宗父子は入水するも、生け捕られ、入京後鎌倉で頼朝に対面する。そして京都に戻る途中、近江で斬首され、京都で獄門にさらされる。安徳天皇の母平徳子（建礼門院）も入水するが生け捕られ、その後出家する。大原寂光院に住み安徳天皇をはじめ平家一門の冥福を祈ったとされるが、終焉の地および日時については、諸説あり未だ定説がない。

2016年度(平成28年度) 公開講座「源平合戦と瀬戸内海」 開催結果報告

1. 日時 2016年(平成28年)7月16日(土) 14:00～15:30

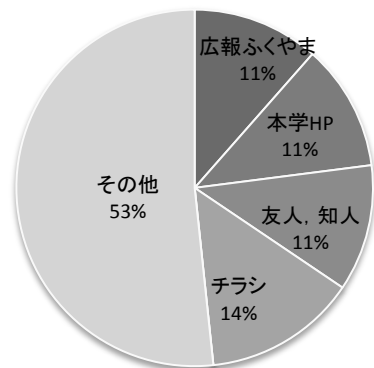
2. 場所 本学 大講義室・中講義室A

参加者	事前申込(人)	参加(人)	参加内訳			参加率
			事前申込	当日申込	スタッフほか	
	286	272	244	18	10	85%

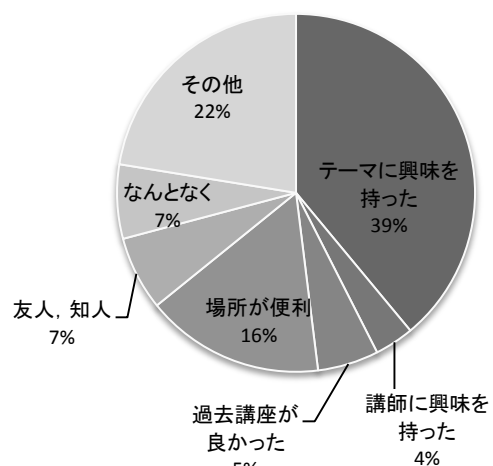
回収(枚)	回収率
202	77%

アンケート項目

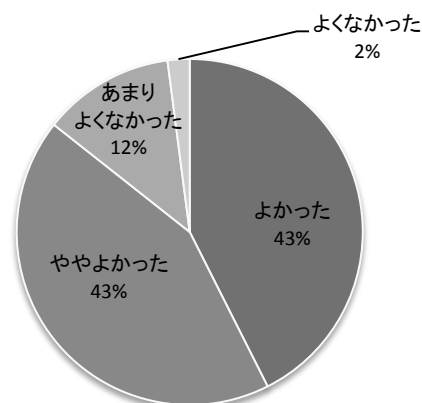
1.この講座を何で知りましたか(複数回答)	
広報ふくやま	24
本学のホームページ	24
友人, 知人	24
公共施設に配布してあるチラシ	29
本学からの郵便でのご案内(DM)	0
その他	108
授業	(74)
先生の紹介	(11)
その他	(4)
無記入	(19)



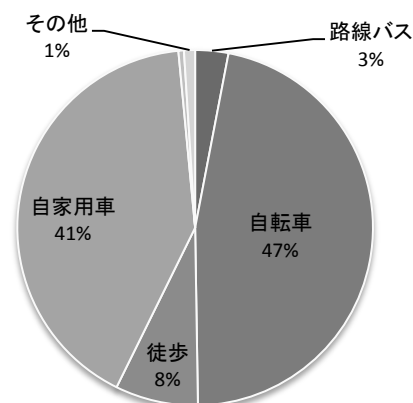
2.この講座になぜ参加しようと思われましたか(複数回答)	
テーマに興味を持ったから	99
講師に興味を持ったから	9
過去に受講した講座が良かったから	14
実施場所が便利だから	41
友人, 知人に勧められて	17
なんとなく	17
その他	57
授業	(33)
老人大学で勉強しているから	(1)
無記入	(23)



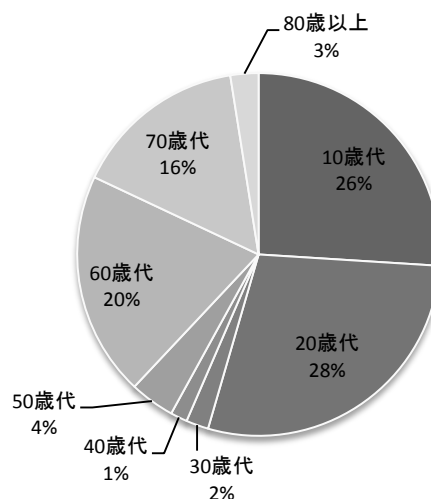
3.この講座を受けてどう思われましたか	
よかった	83
ややよかった	84
あまりよくなかった	24
よくなかった	4



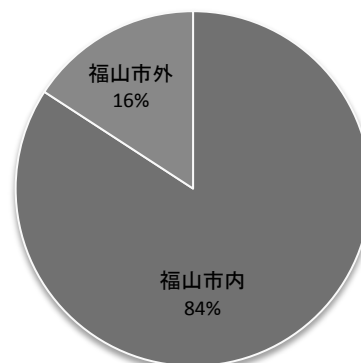
4来学のおもな交通手段は何でしたか	
路線バス	6
自転車	93
徒歩	15
自家用車	82
タクシー	1
その他	2
バイク	(1)
送迎	(1)



5.年齢	
10歳代	52
20歳代	57
30歳代	4
40歳代	3
50歳代	8
60歳代	40
70歳代	31
80歳以上	5



6.お住まい	
福山市内	165
福山市外	31



知の実践③ 新しい交通政策『モビリティ・マネジメント』と 福山市における取り組みの紹介

講師：福山市都市交通課（福山都市圏交通円滑化総合計画推進委員会事務局）

渡邊 一成（本学都市経営学部教授）

日時：2016年（平成28年）8月6日（土） 14:00～15:30

場所：本学 中講義室A

本講座のねらい

わが国の渋滞対策は、増加する交通量(需要)に応じた道路整備(供給)に取り組まれてきているが、近年、利用者が『賢いクルマの使い方』に変容することで需要を抑制する「モビリティ・マネジメント」が注目されている。本講座では、新しい交通政策「モビリティ・マネジメント」について概説するとともに、福山都市圏において、交通渋滞の緩和やCO₂の削減を目的に、2005年度より取り組まれてきている「ベスト運動（市民の交通行動の変容）」について概説した。

新しい交通政策『モビリティ・マネジメント』

本講座では、まず、渡邊より、わが国や福山市の渋滞対策の現状と課題、そして、これまでも渋滞対策として取り組まれてきている、道路整備などハード面（供給側）での対策や、流入規制などソフト面（需要側）での対策について概説した。さらに、近年の新しい交通政策として取組まれてきている、一人ひとりが自発的に公共交通や徒歩・自転車などの利用へ転換していくというモビリティ・マネジメント（MM）の重要性について説明した。

福山市における『モビリティ・マネジメント』の取り組み

続いて、福山市都市交通課から福山都市圏交通円滑化総合計画の概要や、ノーマイカーデーの試行や備後のCO₂削減「ベスト運動」などモビリティ・マネジメントの具体的な取組と現状の紹介があった。福山都市圏交通円滑化総合計画は、交通混雑の著しい福山都市圏において、重点的な道路整備による交通容量拡大策と、交通需要マネジメント・マルチモーダル施策を組み合わせることで、都市交通の円滑化を図り、交通渋滞と道路環境を改善するために策定されたものであり、「ベスト運動」の一環として取り組まれている、中心部循環路線バス「まわローズ」やレンタサイクルなどは、モビリティ・マネジメント促進を支えていることが紹介された。

質疑応答・受講者からの感想

2つの話題提供を受け、聴講者からの「まわローズの状況」「バス路線廃止」などの身近な質問に、福山都市圏交通円滑化総合計画推進委員会事務局（国土交通省福山河川国道事務所、広島県東部建設事務所、福山市都市交通課）より回答いただいた。

受講者からは、「MMはなんとなく難しい政策だと思っていたが、『意識改革』のことだと分かり取り組んでみたいと思った。」「健康のため、環境のため、家計のため、理由は何でも、少しずつ転換していけたら変わるのだと思いました。」などの感想が寄せられた。



会場の様子

2016年度(平成28年度) 公開講座「新しい交通政策「モビリティ・マネジメント」と
福山市における取り組みの紹介」 開催結果報告

1. 日時 2016年(平成28年)8月6日(土) 14:00～15:30

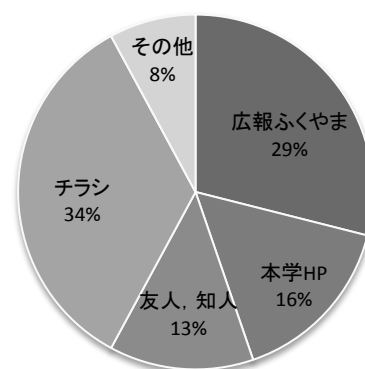
2. 場所 本学 中講義室A

参加者	事前申込(人)	参加(人)	参加内訳			参加率
			事前申込	当日申込	スタッフほか	
	44	51	30	11	10	68%

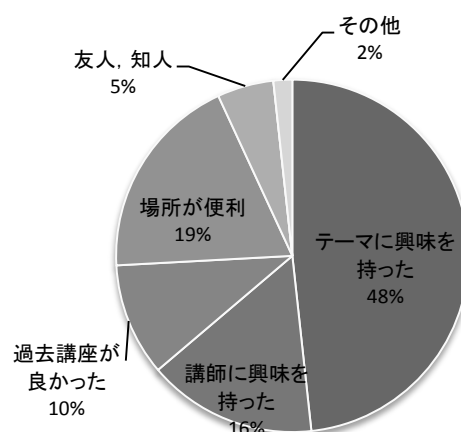
回収(枚)	回収率
34	83%

アンケート項目

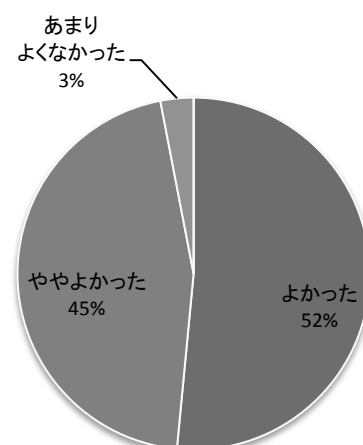
1.この講座を何で知りましたか(複数回答)	
広報ふくやま	11
本学のホームページ	6
友人, 知人	5
公共施設に配布してあるチラシ	13
本学からの郵便でのご案内(DM)	0
その他	3
先生の紹介	(2)
無記入	(1)



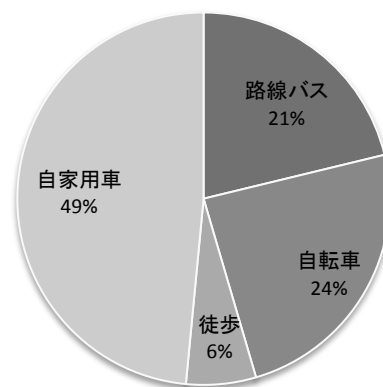
2.この講座になぜ参加しようと思われましたか(複数回答)	
テーマに興味を持ったから	28
講師に興味を持ったから	9
過去に受講した講座が良かったから	6
実施場所が便利だから	11
友人, 知人に勧められて	3
なんとなく	0
その他	1
大学に興味があったから	(1)



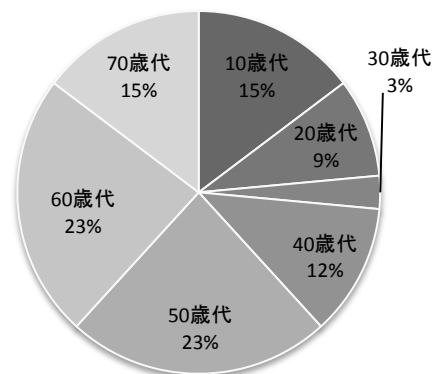
3.この講座を受けてどう思われましたか	
よかった	17
ややよかった	15
あまりよくなかった	1
よくなかった	0



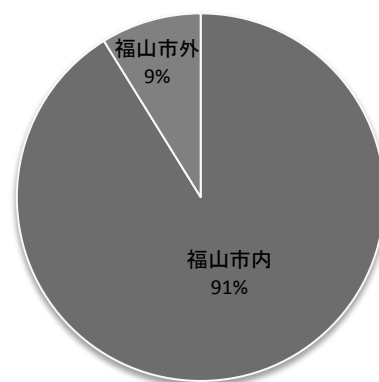
4.来学のおもな交通手段は何でしたか	
路線バス	7
自転車	8
徒歩	2
自家用車	16
タクシー	0
その他	0



5.年齢	
10歳代	5
20歳代	3
30歳代	1
40歳代	4
50歳代	8
60歳代	8
70歳代	5
80歳以上	0



6.お住まい	
福山市内	31
福山市外	3



知の実践④ ミャンマーにおける高等教育と

産業人材育成の課題と可能性

講師：荒木 義宏（一般財団法人国際貿易投資研究所客員研究員）

上別府 隆男（本学都市経営学部教授）

日時：2016 年（平成 28 年）10 月 15 日（土） 14:00～15:30

場所：本学 中講義室 A

ミャンマーにおける海外投資と産業人材育成

東南アジア最後のフロンティアとして海外企業の熱い視線を集めるミャンマーでは、急増する海外投資に対応できる人材の確保・育成が急務であるが、軍事政権のもと高等教育は弱体化したため、人材育成の体制が整っていないのが実状である。安価で良質な労働力と資源が豊富なことから外国投資も急増中であり、それに伴うインフラ整備や人材育成が喫緊の課題である。人材不足から優秀な人材の囲い込みや賃金上昇が起きており、投資や進出を進める日系企業の悩みの種となっている。

日本留学や日本語学習への関心も強まってきており、現地や日本でミャンマー人を対象とする教育や研修を提供する教育機関や企業、団体が増加している。大きな潜在力を持つミャンマーに対し、日本は大きな貢献をすることができるはずであり、そのための体制作りが求められている。同時に、世界有数の多民族国家であるミャンマーでは少数民族との融和が新政権の最大課題である。



荒木さん（左）と上別府（右）



会場の様子

ミャンマーの高等教育の課題と可能性

ミャンマーは、日本の 2 倍近くの国土面積に 5,140 万人（2014 年国勢調査）の人口を抱え、東南アジア最後のフロンティアと呼ばれる。同国は、1948 年にイギリスからビルマとして独立を果たし、1962 年のクーデター後のビルマ式社会主義政権、1988 年以降の軍事政権を経て、1989 年にミャンマーに国名が変更され、2010 年の総選挙後の 2011 年 3 月に 23 年ぶりに「民政」に移管されたが、軍部が主体であった。「民政」の初代大統領に就任したテインセイン氏は対外開放政策に舵を切り、民主化・市場経済化を進めた。2015 年秋実施の総選挙では野党 NLD が勝利し、2016 年 3 月に新政権が発足したが、軍部の影響力は様々な形で残されている。

ミャンマーの高等教育の改革は、民主化・市場経済化・国際化など様々な構造的変化の中、与党と野党のせめぎ合いを核として、非常に速いテンポで進んできている。多くの潜在力・可能性も見られるが、同時に改革を進めるにあたっての課題も山積である。急激な改革は却って政治的対立を招くリスクがあるとの指摘もある中、過去 30 年の実践と伝統を踏まえた改善策や、国際化を伴いながら高等教育改革を行うに際しての妥当なスピードなどの検討が必要である。政権側とそれに対する野党や反対派学生との歩み寄りの鍵となるのは信頼の回復、醸成である。いわば、ポリティクスを健全化し、透明性のある協議・決定過程を確保することが必要であり、これがステークホルダーの一定の納得につながると考えられる。

2016年度(平成28年度) 公開講座「ミャンマーにおける高等教育と産業人材育成の
課題と可能性」 開催結果報告

1. 日時 2016年(平成28年)10月15日(土) 14:00～15:30

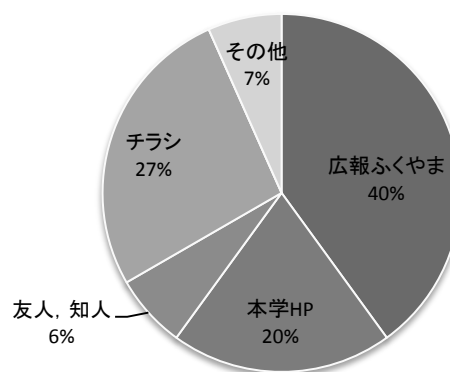
2. 場所 本学 中講義室A

参加者	事前申込(人)	参加(人)	参加内訳			参加率
			事前申込	当日申込	スタッフほか	
	30	25	19	1	5	63%

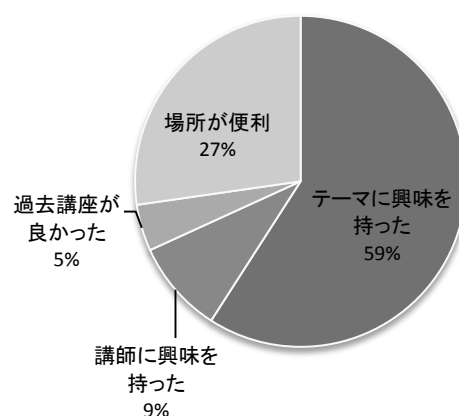
回収(枚)	回収率
15	75%

アンケート項目

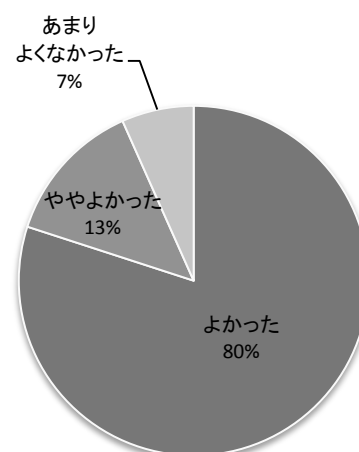
1.この講座を何で知りましたか(複数回答)	
広報ふくやま	6
本学のホームページ	3
友人、知人	1
公共施設に配布してあるチラシ	4
本学からの郵便でのご案内(DM)	0
その他	1
学校の先生から	(1)



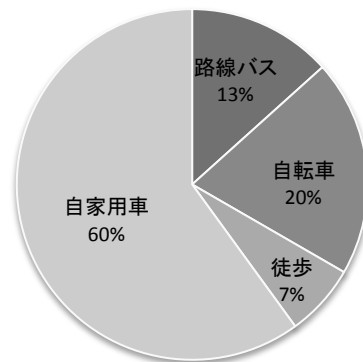
2.この講座になぜ参加しようと思われましたか(複数回答)	
テーマに興味を持ったから	13
講師に興味を持ったから	2
過去に受講した講座が良かったから	1
実施場所が便利だから	6
友人、知人に勧められて	0
なんとなく	0
その他	0



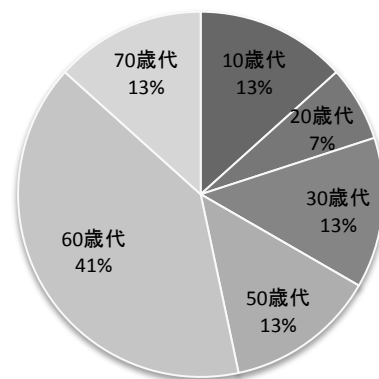
3.この講座を受けてどう思われましたか	
よかった	12
ややよかった	2
あまりよくなかった	1
よくなかった	0



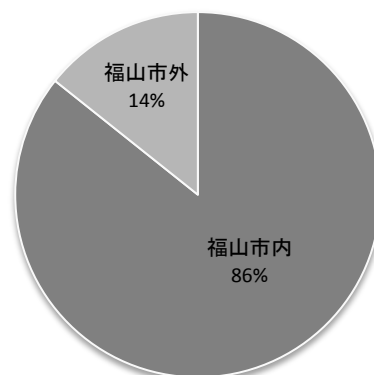
4.来学のおもな交通手段は何でしたか	
路線バス	2
自転車	3
徒歩	1
自家用車	9
タクシー	0
その他	0



5.年齢	
10歳代	2
20歳代	1
30歳代	2
40歳代	0
50歳代	2
60歳代	6
70歳代	2
80歳以上	0



6.お住まい	
福山市内	12
福山市外	2



知の実践⑤ 絵本と紙芝居の作り方

講師：きたむら さとし（絵本作家・イラストレーター）

日時：2016 年（平成 28 年）11 月 19 日（土） 14：00～15：30

場所：本学 大講義室

1) 作品の紹介と創作のプロセス

23 歳で英国に渡ってからの絵本作家としての仕事について、絵本の紹介を交えつつ、迫力のある大画面で紹介された。マザーグース賞を受賞した「ぼくはおこった」の生まれた背景や作成過程において、絵とストーリーが互いに影響しあって一冊の絵本に仕上がっていくという作業の様子を知ることができた。英国の詩人との共同制作や、文章も含めてすべてを担当した絵本製作について作者側の思いや、文と絵の両方を担当した場合の製作過程における心の動きについても語られた。

小学校教科書に掲載されている『ミリーのすてきな帽子』を例に、下書きから清書までのプロセス、ストーリーの骨格がどのようにして決まっていくかについて詳しく解説された。また最近の仕事として、柴田元幸氏（アメリカ文学者）との共同作業について『外套』という大人向けの作品の成立を軸に紹介された。

2) 絵封筒と子ども向けのワークショップ

きたむらさんは、封筒に絵を描いて知人に送る『絵封筒』についての著書があり、また絵封筒だけを集めて展覧会を開催されたこともある。絵封筒を始めるきっかけになったエピソードや、これを使ってやり取りする面白さについて紹介された。また、メキシコをはじめとして海外で開催された子ども向けのワークショップの様子を豊富なスライドを使って紹介された。ここでは、小学校 2～3 年の子ども達が素晴らしい絵を躊躇なく描いていく様子が印象的であった。

3) 紙芝居の実演

紙芝居を講師自作の木枠を使って、実演してくださった。1 つめは「なぞなぞ紙芝居」で 1 枚目が影絵のような黒の絵で中身を問い、続いてその答えが色彩豊かな絵で示された。2 つめは「ライオネルの新しい髪型」というもので、ロックミュージシャンのライオネルが床屋を訪れ、いろいろな髪型を試すというもので、顔は同じで髪型の部分だけが入れ替わるという仕掛けの紙芝居であった。この実演では、会場を訪れた子どもからも大人からも歓声が上がった。

4) 質疑応答

「絵を描くのに写真を参考にすることはあるのか？」という質問に対して、「役に立つことはあるが、それほど大きな役割ではない。全部を頭に入れて、そこから 1 枚の絵にたどり着くまでに描くスケッチは膨大な数になる。だが多大な準備はするが、本番は本番で新しい別のものが生まれたりする。これは音楽の演奏者と同じではないか。」と語られた。

「大人用の絵本と子ども用の絵本では作る側の意識は違うのか？」という質問に対して、「子どもには単純に書くのが条件だが、内容が単純というわけではなく、大人向けだからといって難しい言葉を使えばいいと言うわけではない。」と回答された。

『ミリーのすてきな帽子』を実際に授業で使った小学校教員から、「この作品のキッカケと主題メッセージ」について質問があり、「アフリカの人が頭にモノを載せて歩いている様子からイメージが広がっていった。」とのことだった。「空想していることが一番大事だし、子どもは上手、自分も好きだから」「絵本なんか全部空想で出来ていて、空想して遊べれば一番幸せかもしれない。」という言葉が印象に残った。



会場の様子

2016年度(平成28年度) 公開講座「絵本と紙芝居の作り方」開催結果報告

1. 日時 2016年(平成28年)11月19日(土) 14:00～15:30

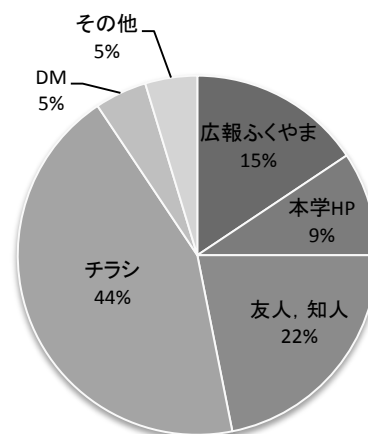
2. 場所 本学 大講義室

参加者	事前申込(人)	参加(人)	参加内訳			参加率
			事前申込	当日申込	スタッフほか	
	73	83	63	9	11	86%

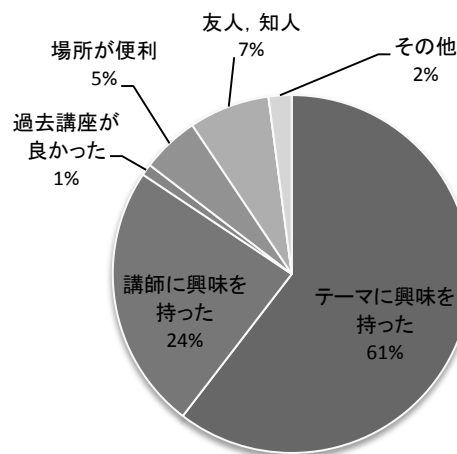
回収(枚)	回収率
63	88%

アンケート項目

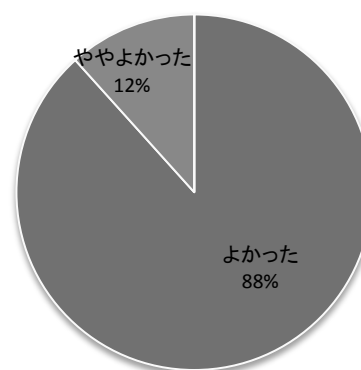
1.この講座を何で知りましたか(複数回答)	
広報ふくやま	10
本学のホームページ	6
友人、知人	14
公共施設に配布してあるチラシ	28
本学からの郵便でのご案内(DM)	3
その他	3
高大連携で	(1)
先生からの紹介	(2)



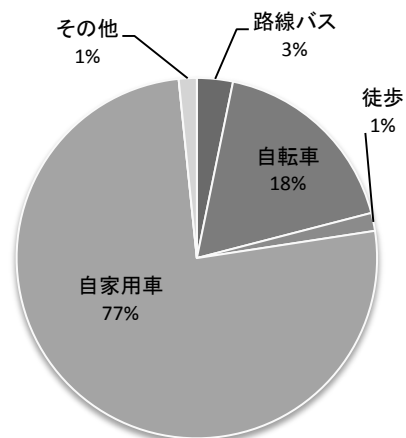
2.この講座になぜ参加しようと思われましたか(複数回答)	
テーマに興味を持ったから	58
講師に興味を持ったから	23
過去に受講した講座が良かったから	1
実施場所が便利だから	5
友人、知人に勧められて	7
なんとなく	0
その他	2
子どもに作ってあげたいから	(1)
絵本に興味があったから	(1)



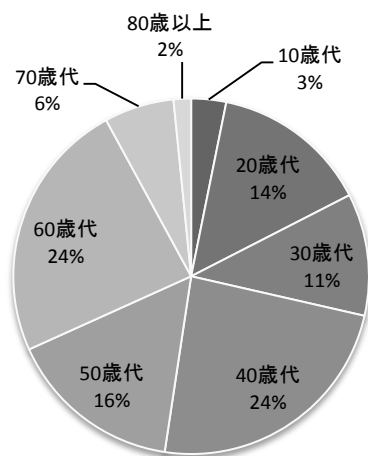
3.この講座を受けてどう思われましたか	
よかった	53
ややよかった	7
あまりよくなかった	0
よくなかった	0



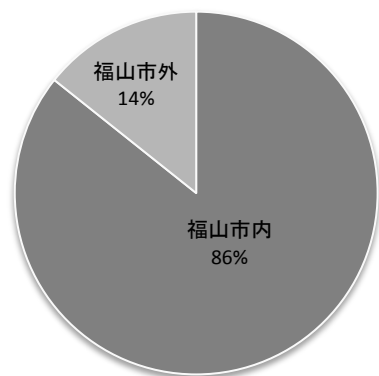
4.来学のおもな交通手段は何でしたか	
路線バス	2
自転車	11
徒歩	1
自家用車	47
タクシー	0
その他	1
バイク	(1)



5.年齢	
10歳代	2
20歳代	9
30歳代	7
40歳代	15
50歳代	10
60歳代	15
70歳代	4
80歳以上	1



6.お住まい	
福山市内	54
福山市外	9



知の実践⑥ 入院中の子どもと家族をサポートする チャイルド・ライフという仕事

講師：藤原 彩（広島大学病院チャイルド・ライフ・スペシャリスト）

日時：2016 年（平成 28 年）12 月 10 日（土） 14：00～15：30

場所：本学 中講義室 A

子どもと家族を支える

子どもが病気やケガで入院するということはどういうことでしょうか？

入院する子どもはもちろんのこと、その家族も様々な不安を抱えると同時に、病院という新しい環境へ適応していかなければなりません。子どもの入院は、家族全体に大きな負担を強います。チャイルド・ライフ・スペシャリストは、そんな子どもと家族に心理社会的支援を提供する専門家です。講演では、始めにチャイルド・ライフ・スペシャリストの役割と理念について説明があり、その後、具体的な事例を通じて、長期入院の子どもとその家族のサポートをする際に大事にしている点について話がありました。

「チャイルド・ライフ・スペシャリスト（Child Life Specialist；CLS）」という仕事は、病院生活における子どもの精神的負担をできるだけ軽減し、子どもが「子どもらしく」過ごせるように支える職業です。アメリカの医療現場では、CLS が小児医療に介入することで、入院期間の短縮や、鎮痛剤の使用量の抑制という効果も証明され、小児医療に欠かせない存在として位置づけられています。資格を取得する難しさや認知度の低さもあり、日本で活動している CLS は 2016 年 12 月現在でわずか 40 人です（29 施設）。

CLS は、医師、看護師、社会福祉士、心理士、教師や保育士、また子どもの両親など、多職種で構成される医療チームの一員として働いています。多職種連携医療の中で、CLS は、特に子どもの心理社会的ニーズに焦点を当て、1）遊びや治癒的遊びを通して、子どもの不安やストレスをできる限り軽減する、2）子どもが、これから受ける医療を理解し主体的に臨めるように、心の準備をサポートする、3）子どもと家族、きょうだいを含めた子ども・家族中心医療をめざし、医療における子どもの人権を尊重する、4）病気の子どもだけでなく、そのきょうだいや周りの子どもたちも心理社会的に支援する、5）様々な家族の危機的な状況や喪失体験と向き合う家族を支援する、6）子どもと家族の個別性を大切に、それぞれの子どもと家族に寄り添った支援をする、7）医療環境下においても、子どもの生活と成長発達を保障する、8）病院という非日常的な環境に日常を創造し、子どもに優しい医療環境を作ることを目的に活動しています。

病気や入院は、誰にとっても大きなストレスです。特に子どもは、認知的にも情緒的にも発達途中にあり、大人とは異なる方法で物事を理解し受け止めてしまいます。十分なサポートが得られないと、子どもたちは、恐怖、混乱、孤独感、羞恥心、罪悪感などを抱え、その情緒的な不安定さは、子ども本来の成長発達を妨げ、将来的にもマイナスの影響を与えてしまう可能性があります。

通常、乳幼児期の子どもたちにとって、生活の中心は遊びです。入院中は遊びを確保することが難しくなりがちですが、たとえ入院中であっても、この時期に「発達に適した環境や関わり」を提供し、「通常の成長、発達」を促すことが重要です。「病院」という場所を単に治療目的のためにだけあるのではなく、「生活の場」として捉えることが大事なのです。CLS 理念の根底に流れるものは、子どもにとって生活そのものである遊びを提供することによって、医療現場のノーマライゼーション（常態化）を図り、子どもを一人の人間として尊重するという姿勢です。



藤原さんと会場の様子

2016年度(平成28年度) 公開講座「入院中の子どもと家族をサポートするチャイルド・ライフという仕事」

開催結果報告

1. 日時 2016年(平成28年)12月10日(土) 14:00～15:30

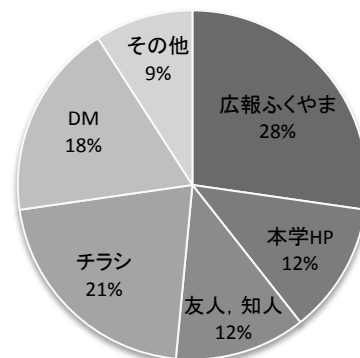
2. 場所 本学 中講義室A

参加者	事前申込(人)	参加(人)	参加内訳			参加率
			事前申込	当日申込	スタッフほか	
	59	62	55	2	5	93%

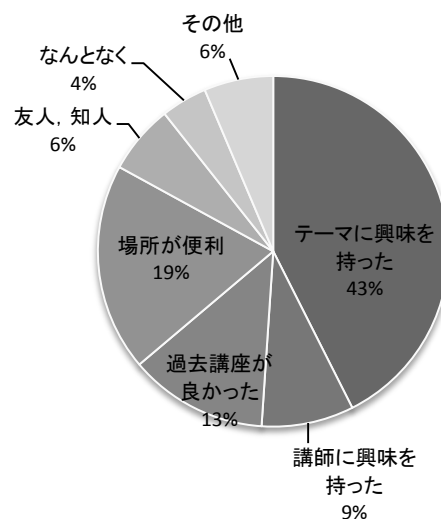
回収(枚)	回収率
29	51%

アンケート項目

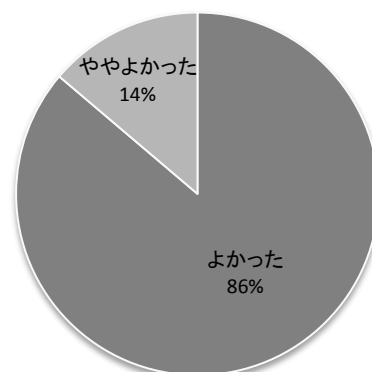
1.この講座を何で知りましたか(複数回答)	
広報ふくやま	9
本学のホームページ	4
友人, 知人	4
公共施設に配布してあるチラシ	7
本学からの郵便でのご案内(DM)	6
その他	3
授業で	(2)
無記入	(1)



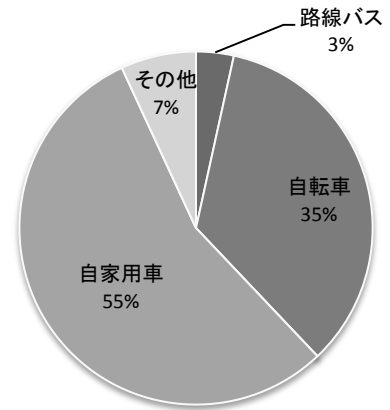
2.この講座になぜ参加しようと思われましたか(複数回答)	
テーマに興味を持ったから	20
講師に興味を持ったから	4
過去に受講した講座が良かったから	6
実施場所が便利だから	9
友人, 知人に勧められて	3
なんとなく	2
その他	3
授業で説明するのに	(1)
どのようにしたら資格が取れるのか知りたかった	(1)
上司の勧め	(1)



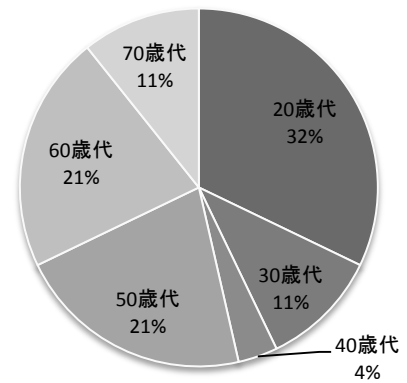
3.この講座を受けてどう思われましたか	
よかった	25
ややよかった	4
あまりよくなかった	0
よくなかった	0



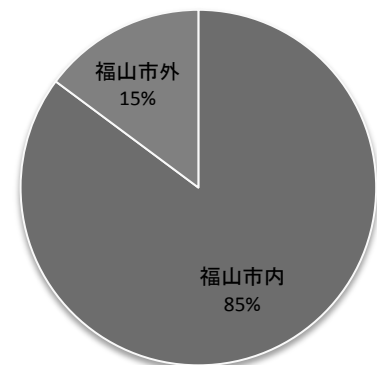
4.来学のおもな交通手段は何でしたか	
路線バス	1
自転車	10
徒歩	0
自家用車	16
タクシー	0
その他	2
JR	(1)
バイク	(1)



5.年齢	
10歳代	0
20歳代	9
30歳代	3
40歳代	1
50歳代	6
60歳代	6
70歳代	3
80歳以上	0



6.お住まい	
福山市内	23
福山市外	4



4 ふくやまサイエンスフェスティバル

2016 ふくやまサイエンスフェスティバル

日時：2016 年（平成 28 年）9 月 24 日（土） 10：00～15：00

場所：本学 中庭

主催：福山市立大学教育研究交流センター

ふくやまサイエンスフェスティバル実行委員会

協賛：福山ガス株式会社 ホーコス株式会社 株式会社ハローズ 株式会社エフピコ 有限会社勉強堂

協力：広島大学附属福山中・高等学校天文地学部 福山市立福山中・高等学校自然科学部

福山市立小学校教員

後援：NHK 広島放送局 中国放送 テレビ新広島 広島テレビ放送 広島ホームテレビ エフエムふくやま

朝日新聞福山支局 読売新聞福山支局 産経新聞福山支局 毎日新聞福山支局 中国新聞備後本社

山陽新聞社 福山市教育委員会（順不同）

4 回目を迎えるサイエンスフェスティバルは、例年と同様に参加型の実験ブースと協賛企業によるデモンストレーションおよび屋外ステージでのサイエンスショーという 3 本立てで構成された。

実験ブースは①葉っぱのガイコツ ②ストロー笛をつくろう ③スライムで遊ぼう ④福山で身近な災害に備えよう～防災展示～ ⑤ミニ実験パーク（津波の実験など） ⑥四つ葉のクローバーのひみつ ⑦福山の大地ができるまで ⑧備後のCO₂削減『ベスト運動』，以上 8 テントで実施された。

地元企業企画としてはホーコス(株)による精密機械のデモンストレーションと，福山ガス(株)と(株)ハローズの 2 社共同による「低温貯蔵のイモをくらべよう」，(株)エフピコによる「プラ板でお気に入りのキーホルダーを作ろう」，(有)勉強堂「ナマズでお菓子に挑戦」の 4 展示が披露された。

サイエンスショーのステージでは，日野武志さん（出雲科学館）による「こんなコマ，回るかな？」と飛田賀光さん（茨城県日立市）による「ピンクパンサーのブランコ大車輪」がそれぞれ，午前午後 1 回ずつ，合計 4 回行われ，好評を博した。

サイエンスショーの間には本学吹奏楽部による演奏が披露されて，子ども達がうれしそうに耳を傾けていた。ステージのスケジュールは次の通りである。

- 10：00 開会式（実行委員長あいさつ）
- 10：10 サイエンスショー「こんなコマ，回るかな？」
- 11：00 サイエンスショー「ピンクパンサーのブランコ大車輪」
- 12：20 吹奏楽部演奏
- 13：00 サイエンスショー「こんなコマ，回るかな？」
- 14：00 サイエンスショー「ピンクパンサーのブランコ大車輪」

今年度，小学校理科教員の組織が福山市教育委員会のシステム全体の見直しにより，実行委員会の形での参加となった。また，大学事務局の担当部署も総務課へ移行したが，職員の全面的なバックアップもあって，運営は例年同様スムーズに行われた。

その一方で，お土産グッズを受け取ることができるブースでは，順番待ちの列ができて若干滞る状態が生じたり，子どもがスライムで会場の床を汚すこともあったが，例年以上に注意の喚起を促すことによって対処した。



会場全体の様子



実行委員長の開会挨拶



受付風景



サイエンスショー
「こんなコマ、回るかな？」



サイエンスショー
「ピンクパンサーのブランコ大車輪」



プラ板でお気に入りのキーホルダーを作ろう



精密機械のデモンストレーション「ふくろうの色ぬり」



ナマズでお菓자에挑戦



四つ葉のクローバーのひみつ



備後のCO₂削減『ベスト運動』



ミニ実験パーク（津波のモデル実験など）



低温貯蔵のイモをくらべよう



福山で身近な災害に備えよう～防災展示～



福山の大地ができるまで



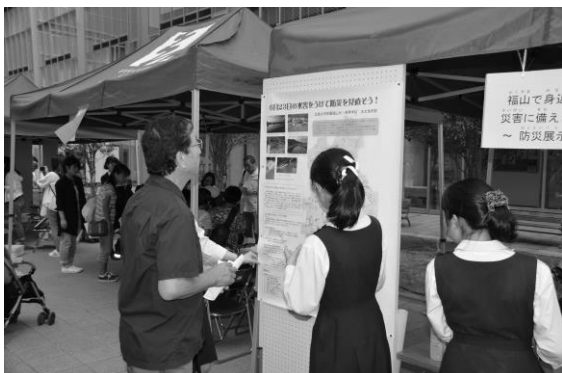
ストロー笛を作ろう



葉っぱのガイコツ



スライムで遊ぼう



地元の生徒による丁寧な解説



本学吹奏楽部による演奏

天候にも恵まれて、約 1,500 人の子ども達や一般市民が参加し、楽しい時間を過ごしたようである。

小学校、中学校、高等学校の先生や生徒さんのほか、地元企業の方々に質の高い実験ブースを出していたうえ、地元企業各社に協賛していただき、今年も成功裡に終了することが出来た。ご支援とご協力を賜った関係者の皆様には心よりお礼を申し上げます。

2016ふくやまサイエンスフェスティバル 開催アンケート 結果報告

1. 日時 2016年(平成28年)9月24日(土) 10:00～15:00

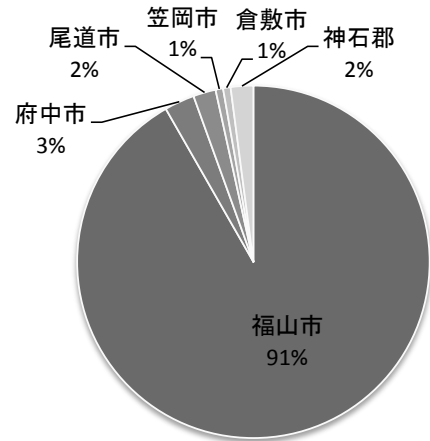
2. 場所 本学 中庭

3. 参加者	全体参加(人)	大人	子ども	※みなと町公園からの入場を含む
	1500	660	840	

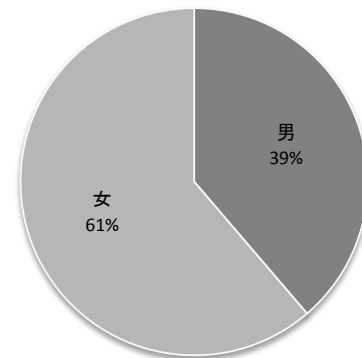
4. アンケート集計結果	回収(枚)	回収率
	146	17%

アンケート項目

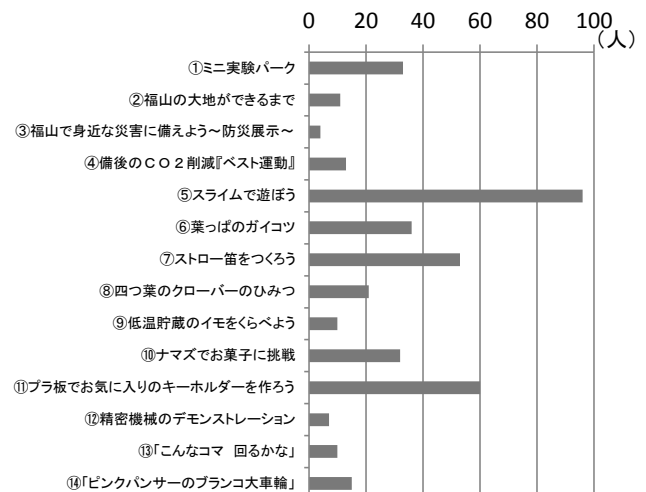
1. 住んでいるところを教えてください	
福山市	133
府中市	4
尾道市	3
笠岡市	1
倉敷市	1
神石郡	3



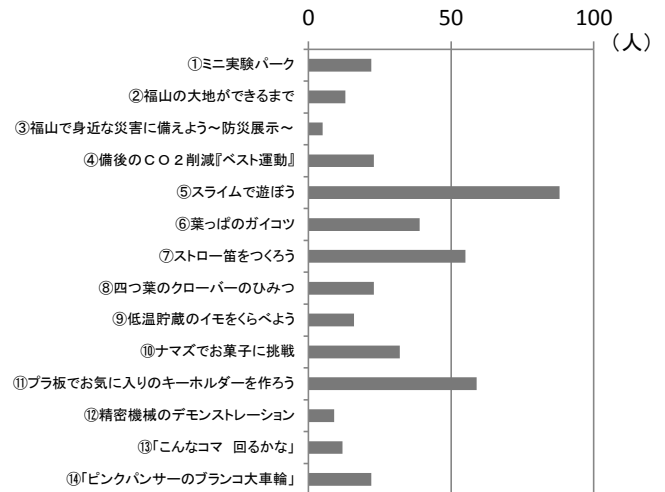
2. 男の子・女の子	
男	55
女	87



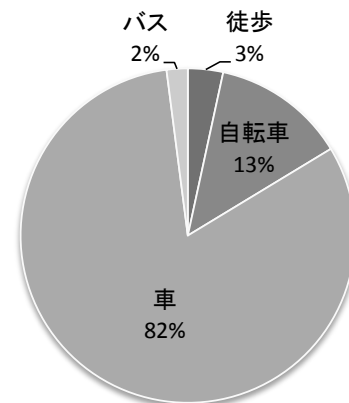
3. 何を楽しみに来しましたか。 (あてはまるものに3つマルをつけてください)	
①ミニ実験パーク	33
②福山の大地ができるまで	11
③福山で身近な災害に備えよう～防災展示～	4
④備後のCO2削減『ベスト運動』	13
⑤スライムで遊ぼう	96
⑥葉っぱのガイコツ	36
⑦ストロー笛をつくろう	53
⑧四つ葉のクローバーのひみつ	21
⑨低温貯蔵のイモをくらべよう	10
⑩ナマズでお菓子に挑戦	32
⑪プラ板でお気に入りのキーホルダーを作ろう	60
⑫精密機械のデモンストレーション	7
⑬「こんなコマ 回るかな」	10
⑭「ピンクパンサーのブランコ大車輪」	15



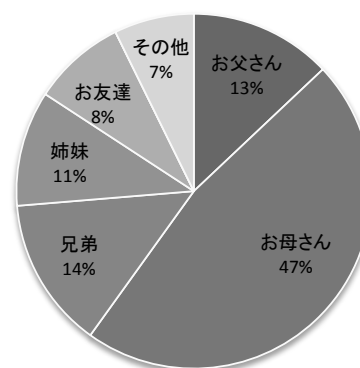
4. 特に面白かったものは。 (あてはまるものの番号を3つかいてください)	
①ミニ実験パーク	22
②福山の大地ができるまで	13
③福山で身近な災害に備えよう～防災展示～	5
④備後のCO2削減『ベスト運動』	23
⑤スライムで遊ぼう	88
⑥葉っぱのガイコツ	39
⑦ストロー笛をつくろう	55
⑧四つ葉のクローバーのひみつ	23
⑨低温貯蔵のイモをくらべよう	16
⑩ナマズでお菓子里に挑戦	32
⑪プラ板でお気に入りのキーホルダーを作ろう	59
⑫精密機械のデモンストレーション	9
⑬「こんなコマ 回るかな」	12
⑭「ピンクパンサーのブランコ大車輪」	22



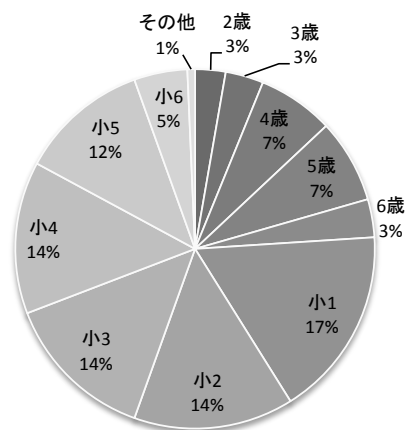
5. 交通手段(複数回答)	
徒歩	5
自転車	19
車	120
バス	3
電車	0
バイク	0
その他	0



6. 誰と一緒に来ましたか(複数回答)	
お父さん	32
お母さん	116
兄弟	34
姉妹	26
お友達	21
ひとり	0
その他	18



7. 年齢・学年	
1歳	0
2歳	4
3歳	5
4歳	10
5歳	11
6歳	5
小1	25
小2	21
小3	20
小4	20
小5	17
小6	7
その他	1



子どもの通う学校等名

小学校		小学校		幼稚園		保育所(園)	
旭	1	東	3	伊勢丘	2	春日台	2
旭(府中市)	1	光	1	かなりや	4	小畠(神石高原町)	1
暁の星	2	久松台	3	誠信	2	東	1
曙	4	深津	1	すばる	1	宜山ひかり	2
旭丘	1	本郷	1	手城	1		
網引	2	幕山	2	天使	1		
伊勢丘	2	松永	1	西	1		
泉	1	緑丘	5	延広	1		
今津	1	南(府中市)	1	福山りじょう	2		
駅家	3	水呑	1	めばえ	1		
春日	1	湯田	6				
川口	4	福山北特別支援学校	1				
川口東	3	中学校					
ぎんがの郷	2						
来見(神石高原町)	1	鷹取	1				
倉敷西(倉敷市)	1						
国府(府中市)	2						
桜丘	9						
三和(神石高原町)	1						
樹徳	5						
新市	1						
新涯	3						
瀬戸	1						
千田	1						
高須(尾道市)	1						
多治米	3						
土堂(尾道市)	2						
津之郷	2						
手城	12						
戸手	5						
西深津	1						

市外及び県外の学校等

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

5 ワークショップ実施報告書

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

ふくやまの伝統芸能「二上りおどり」

講師：大庭 三枝（本学教育学部准教授）

日時：2016 年（平成 28 年）7 月 30 日（土） 10：00～11：30

場所：とおり町交流館

1 二上りおどりとは

「二上りおどり」とは、江戸時代から今日まで福山で伝承されている伝統的な踊りで、県の無形民俗文化財でもあります。江戸中期頃江戸詰の福山藩士によって江戸から招来されたものと考えられ、三味線を基調に、胡弓、尺八、鼓の地方（じかた）に合わせて、武士も町人も夕涼みの姿そのままに思い思いに踊り始めたのが原型であり、仏様の供養のため初盆を迎える新仏のある家やお墓の前で、夜遅くまで踊り楽しんだそうです。持ち物や被り物は時代とともに変遷し、江戸末期頃より「四ツ竹」を使用するようになりました。唄がないのが特徴で、テンポはゆっくりとしており「盆踊りでは日本一静かな品格のある踊りです。¹⁾」1945 年 8 月 8 日の空襲は福山城も街も焼き尽くしましたが、人々の心から文化まで奪うことはできませんでした。戦後人々は焦土の中で再び踊りを再開し、現在も 8 月を中心に踊り継いでいます。

2 講座のねらい

- ・ 地域の伝統芸能「二上りおどり」をどの世代でも楽しめる場を設け、市民に地域文化を再発見する機会を提供する。福山夏まつり「二上りおどり大会」に出場する様々な連（古典芸能保存会連、福山市立大学連）の個性あふれる踊りを体験する。
- ・ 参加学生にとっては、さまざまな世代の市民との活動の中から、伝統文化の学習のみならずコミュニケーション力、協働する力を養う機会とする。（本学健康・スポーツⅡB「二上りおどり」履修者参加）

3 講座の内容

① 二上りおどりの歴史等解説と踊り体験

本学連では右手に「四ツ竹」、左手に「カッチンくん」（ペットボトルを再利用したオリジナル鳴り物）を使って踊ります。まず「四ツ竹」を握りながらカチカチと音を出し、福山市立大学連の踊りを体験します。

② 正調二上りおどり体験（福山市古典芸能保存会会長星野由幸氏とともに）

③ 二上りおどり像と足運び石畳見学

＜写真左上：四ツ竹とカッチンくん、左下：星野古典芸能保存会会長（二上りおどり像モデル）、右 2 枚：踊り像と足運び石畳を見学する学生＞



4 講座の様子

福山市立女子短期大学時代から続く本講座は、気軽に参加できる福山の夏の風物詩として市民の方々に親しまれています。「お兄さん・お姉さんと一緒に踊るのが楽しい」と毎年この講座を楽しみに参加される親子さんなど幅広い年代の市民と「二上りおどり」を通じて交流することができました。「二上りおどりの生き字引」星野さんの指導を受け、参加者の踊りには一段と磨きがかかりました。今年も、FCU-Chan 研究会とコラボし、一緒に体を動かした後、用意してもらったそうめんに舌鼓を打ちました。

¹⁾ 福山市古典芸能保存会「二上りおどり解説」、『無形文化財を活用した教育プログラムの展開～広島県福山市の「二上りおどり」を題材として共生のまちづくりをめざす～（福山市立女子短期大学現代G P 報告書）』2009 p.78

2016年度(平成28年度) ワークショップ「ふくやまの伝統芸能 二上りおどり」 開催結果報告

1. 日時 2016年(平成28年)7月30日(土) 10:00～11:30

2. 場所 とおり町交流館

※子どもの3人の参加あり

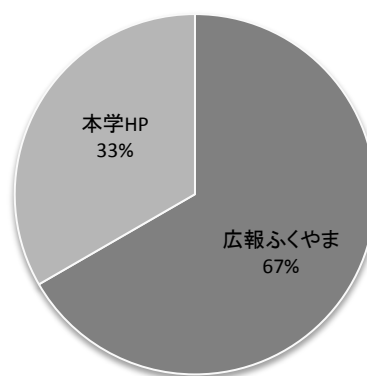
参加者	事前申込(人)	参加(人)	参加内訳			参加率
			事前申込	当日申込	スタッフほか	
	5	10	4	4	2	80%

4. アンケート集計結果

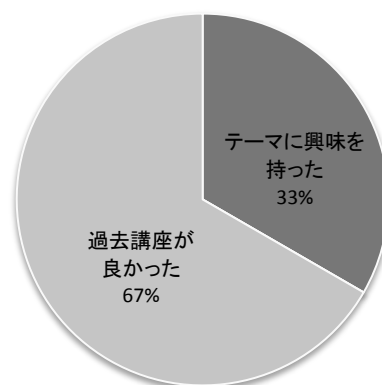
回収(枚)	回収率
3	38%

アンケート項目

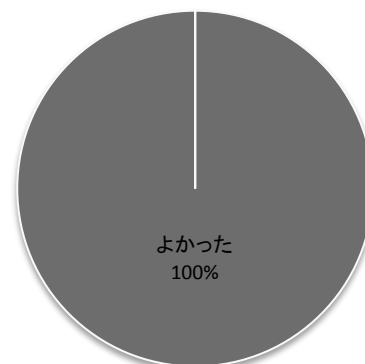
1.この講座を何で知りましたか(複数回答)	
広報ふくやま	2
本学のホームページ	1
友人、知人	0
公共施設に配布してあるチラシ	0
本学からの郵便でのご案内(DM)	0
その他	0



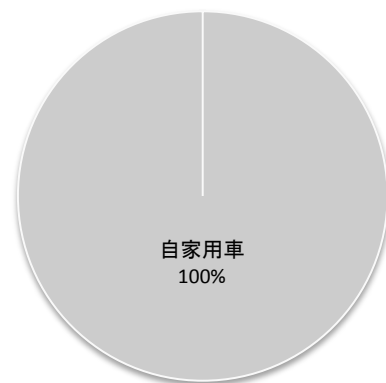
2.この講座になぜ参加しようと思われましたか(複数回答)	
テーマに興味を持ったから	1
講師に興味を持ったから	0
過去に受講した講座が良かったから	2
実施場所が便利だから	0
友人、知人に勧められて	0
なんとなく	0
その他	0



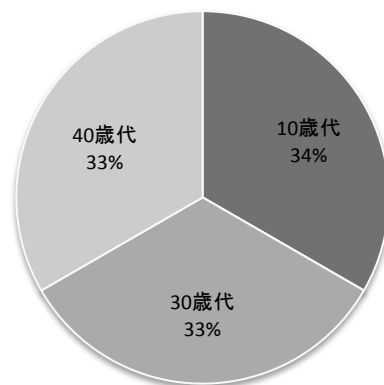
3.この講座を受けてどう思われましたか	
よかった	3
ややよかった	0
あまりよくなかった	0
よくなかった	0



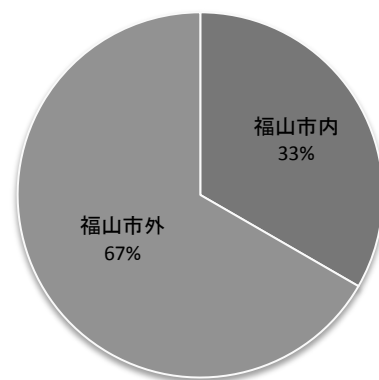
4.来学のおもな交通手段は何でしたか	
路線バス	0
自転車	0
徒歩	0
自家用車	3
タクシー	0
その他	0



5.年齢	
10歳代	1
20歳代	0
30歳代	1
40歳代	1
50歳代	0
60歳代	0
70歳代	0
80歳以上	0



6.お住まい	
福山市内	1
福山市外	2



Practical activities and teaching ideas for active English communication classes !

講師 : Stephen Hampshire (本学都市経営学部講師)

日時 : 2016 年 (平成 28 年) 10 月 8 日 (土) 10 : 00 ~ 12 : 00

場所 : 本学 小講義室 A

Active learning English workshop for teachers.

This workshop was primarily designed for junior and senior high school teachers.

Despite pressure on school teachers to provide more communicative language opportunities for students, the fact remains that there is little support or training on offer for teachers to enable them to implement and feel comfortable with the idea of more communicative language classes. They are often unfamiliar with the types of materials and presentation techniques that are so supportive of communicative language teaching and learning.

This workshop was designed to help bridge this gap by demonstrating a variety of easy-to-use task-based activities and presentation techniques sourced from my book ‘Why Can’ t Elephants Jump?

The workshop was attended by 10 teachers (2 who had to leave early).

All those who attended gave positive feedback and felt that the workshop had provided them with useful ideas for their future classes.

2016年度(平成28年度) ワークショップ「Practical activities and teaching ideas
for active English communication classes!」 開催結果報告

1. 日時 2016年(平成28年)10月8日(土) 10:00~12:00

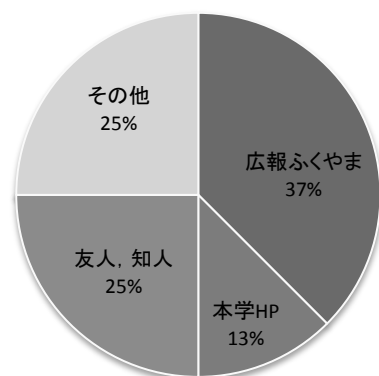
2. 場所 本学 小講義室A

参加者	事前申込(人)	参加(人)	参加内訳			参加率
			事前申込	当日申込	スタッフほか	
	10	9	8	0	1	80%

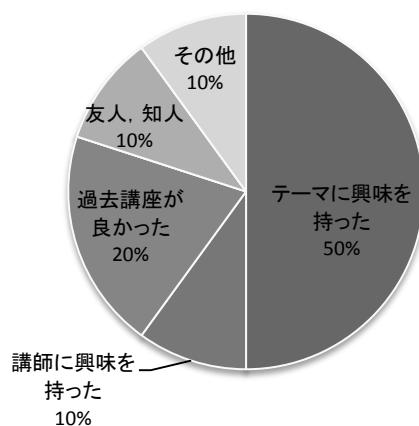
回収(枚)	回収率
8	100%

アンケート項目

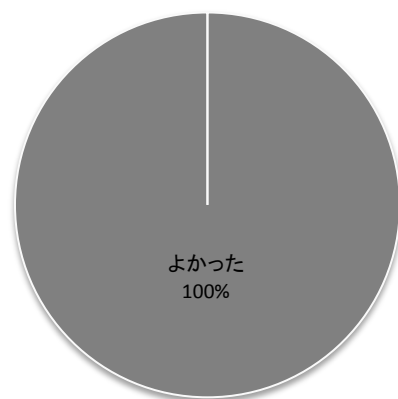
1.この講座を何で知りましたか(複数回答)	
広報ふくやま	3
本学のホームページ	1
友人, 知人	2
公共施設に配布してあるチラシ	0
本学からの郵便でのご案内(DM)	0
その他	2
免許更新	(1)
中学校の先生から	(1)



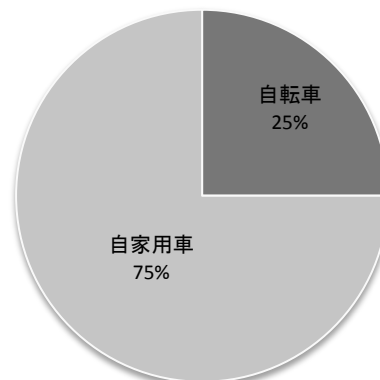
2.この講座になぜ参加しようと思われましたか(複数回答)	
テーマに興味を持ったから	5
講師に興味を持ったから	1
過去に受講した講座が良かったから	2
実施場所が便利だから	0
友人, 知人に勧められて	1
なんとなく	0
その他	1
無記入	(1)



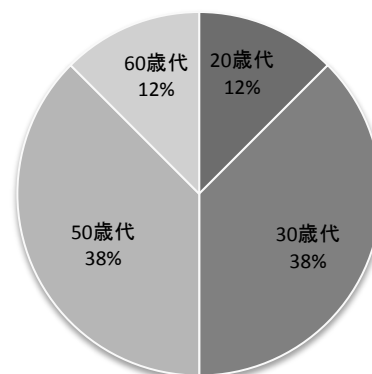
3.この講座を受けてどう思われましたか	
よかった	8
ややよかった	0
あまりよくなかった	0
よくなかった	0



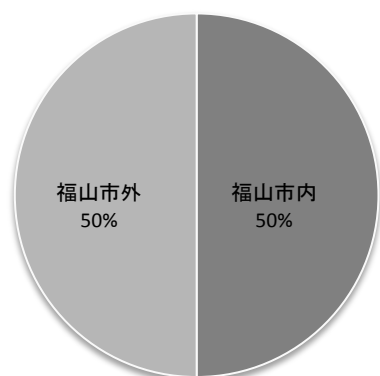
4.来学のおもな交通手段は何でしたか	
路線バス	0
自転車	2
徒歩	0
自家用車	6
タクシー	0
その他	0



5.年齢	
10歳代	0
20歳代	1
30歳代	3
40歳代	0
50歳代	3
60歳代	1
70歳代	0
80歳以上	0



6..お住まい	
福山市内	4
福山市外	4



ヨガ

講師：西崎 裕美（本学非常勤講師）

日時：2016 年（平成 28 年）10 月 22 日（土）、29 日（土） 11：00～12：30

場所：本学 実技演習室

ヨガとは

ヨガの起源は、約 4500 年前のインダス文明がはじまりといわれています。インドから世界各国へと広がり、日本にヨガが伝わったのは平安時代の頃、当時「ユガ」と呼ばれ、瞑想を中心とした内容でした。現在は、身体を整えるポーズ、気の流れを調整する呼吸法、心のバランスを保つ瞑想によって構成されるハタヨガが広まっており、多くの人々が美容や健康などのために行っています。

講座の目的

現在、ヨガの流派やポーズ、呼吸法等多くある中で、男女、年齢問わずどなたでも参加可能と募集しました。自身の筋力、体力、柔軟性、身体の調子など、それぞれ体と心に向き合い、今の自分に合うポーズ、呼吸のリズムを見つけていくことを伝えました。頑張りすぎず、心地よい動きや呼吸でリラックスしてもらうことを目的としました。

講座内容

- 一回目：ヨガの歴史について、身体の使い方、呼吸法、
各ポーズ（座位、仰向け、立位、約 4 種類ずつ）、リラクゼーション
- 二回目：自分の身体と向き合い、心地の良い呼吸、ポーズを行う
呼吸法、各ポーズ（座位、四つん這い、立位、仰向け、約 5 種類ずつ）
リラクゼーション、瞑想

講座の様子

しっかりと動かれている方、または途中休みながらも続けられている方など、それぞれのペースで動かれていました。二回続けての講座ということもあってか、周りの方と会話する時間が増え、交流が深まったようです。



座位のポーズ



猫のポーズ

2016年度(平成28年度) ワークショップ「ヨガ」開催結果報告

1. 日時 2016年(平成28年)10月22日(土) , 29日(土) 11:00~12:30

2. 場所 本学 実技演習室

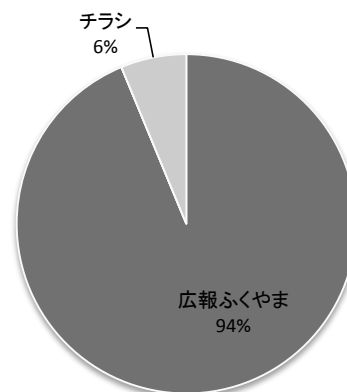
3. 参加者	事前申込(人)	参加(人)	参加内訳			参加率
			事前申込	当日申込	スタッフほか	
	20	17	15	0	2	75%

※最終日の人数

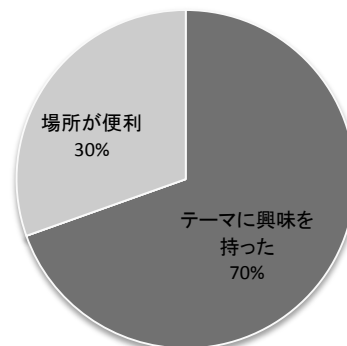
4. アンケート集計結果	回収(枚)	回収率
	16	100%

アンケート項目

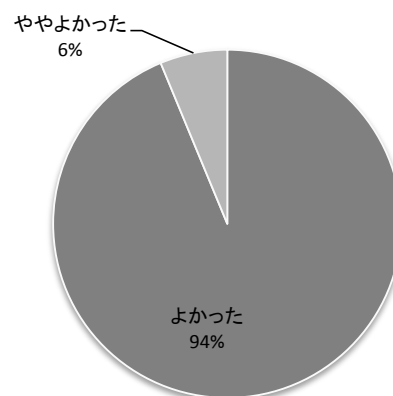
1.この講座を何で知りましたか(複数回答)	
広報ふくやま	15
本学のホームページ	0
友人, 知人	0
公共施設に配布してあるチラシ	1
本学からの郵便でのご案内(DM)	0
その他	0



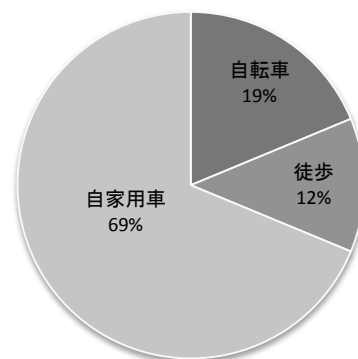
2.この講座になぜ参加しようと思われましたか(複数回答)	
テーマに興味を持ったから	16
講師に興味を持ったから	0
過去に受講した講座が良かったから	0
実施場所が便利だから	7
友人, 知人に勧められて	0
なんとなく	0
その他	0



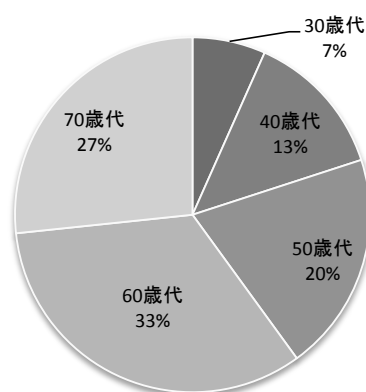
3.この講座を受けてどう思われましたか	
よかった	15
ややよかった	1
あまりよくなかった	0
よくなかった	0



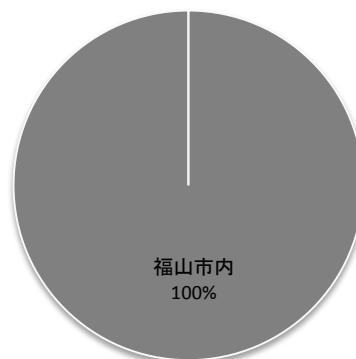
4.来学のおもな交通手段は何でしたか	
路線バス	0
自転車	3
徒歩	2
自家用車	11
タクシー	0
その他	0



5.年齢	
10歳代	0
20歳代	0
30歳代	1
40歳代	2
50歳代	3
60歳代	5
70歳代	4
80歳以上	0



6.お住まい	
福山市内	16
福山市外	0



はじめる絵画講座 ～調子を変えて描くデッサン～

講師：渋谷 清（本学教育学部教授）

日時：2016 年（平成 28 年）10 月 22 日（土） 13：00～16：00

場所：本学 図画工作室

■講座の目的

対象物をとらえて描写をするデッサンにおいては、形の描写と共に色（調子）の描写も重要である。“明暗”や“濃淡”ともいわれる“調子”に注目して、オーソドックスに行われている描き方（白地に黒鉛筆で描画）とは違う手法でデッサンに取り組み、新たな“調子”のとらえ方を認識することを目的とした。

■使用した題材/素材など

高さ 173mm ガラス製グラス（題材）、ミューズコットン紙（364×257mm、あさぎねず色及び根岸色を使用）、ホワイトペンシル、黒鉛筆（2B）、プラスチック消しゴム、練消しゴム、画板、クリップ

■制作過程

制作に入る前に、白い用紙に黒鉛筆のみで濃淡の調子をつけたいわゆる一般的なデッサンと、これから使用する中間調子色の用紙にホワイトペンシルと黒鉛筆でデッサンした実作例を示しながら、双方の比較をすることで、この講座で取り組む「調子」について事前の理解を深めた。一般的なデッサンにおける明暗の調子のつけ方は、およそ 3H から 6B の黒鉛筆を用いて、それぞれの鉛筆濃度に扱い方の強弱を交えながら複雑な濃淡の階調を作り出してゆく。最も明るい部分は紙の白であり、逆の暗い部分は濃い鉛筆を強く使用した部分となる。用紙の白を明るさの頂点として黒鉛筆で微妙な階調を作ってゆく表現は、階調を的確に把握する観察力と、その観察した明暗を様々な濃度の黒鉛筆で再現する手先のテクニックが不可欠で、これにはかなりの慣れと修練が必要になる。このタイプのデッサンが持つ難しさの一つであろう。対して本講座でのデッサン（図 1）は、白用紙を使用せず中間調子色の用紙にデッサンをした。描画材は 2B の黒鉛筆とホワイトペンシルである。描画用紙自体が中間の調子となり、それを境に 2B 黒鉛筆で暗い調子、もう一方の明調子をホワイトペンシルで表現した。講座では最初に暗調子に着目し、二段階の濃淡調子（最も暗い、次に暗い）を 2B 黒鉛筆にて観察描写した。暗部に限定し、2 調子と目安の制限を付けることで、全体を見ると複雑に入り乱れている明暗の調子が分割してとらえやすくなり、視覚的に整理して表現できることを期待したためである。鉛筆の 2B という濃さも、二段階の濃淡調子ならばつけやすい芯の硬度であり、力加減で三～四段階の表現も容易に可能になる。その後にホワイトペンシルにて明調子を暗調子同様、二段階の濃淡調子（最も明るい、次に明るい）を描写した（図 2）。黒鉛筆もホワイトペンシルも描かれていない中間調子用紙部分を含めると、目安上は五段階の調子が出来ているわけだが、実際にはもっと多くの階調（6～8 階調くらい）が観察され表現されていた。明部にはホワイトペンシル、暗部には黒鉛筆と描画材を分け、中間調子の用紙に描画することによって、黒鉛筆のみで白用紙をベースに多くの階調を再現するより、比較的容易にしかも的確に整理をして明暗の調子をとらえられることを確認して講座を終えた。



図 1 講座でのデッサン作例

制作に入る前に、白い用紙に黒鉛筆のみで濃淡の調子をつけたいわゆる一般的なデッサンと、これから使用する中間調子色の用紙にホワイトペンシルと黒鉛筆でデッサンした実作例を示しながら、双方の比較をすることで、この講座で取り組む「調子」について事前の理解を深めた。一般的なデッサンにおける明暗の調子のつけ方は、およそ 3H から 6B の黒鉛筆を用いて、それぞれの鉛筆濃度に扱い方の強弱を交えながら複雑な濃淡の階調を作り出してゆく。最も明るい部分は紙の白であり、逆の暗い部分は濃い鉛筆を強く使用した部分となる。用紙の白を明るさの頂点として黒鉛筆で微妙な階調を作ってゆく表現は、階調を的確に把握する観察力と、その観察した明暗を様々な濃度の黒鉛筆で再現する手先のテクニックが不可欠で、これにはかなりの慣れと修練が必要になる。このタイプのデッサンが持つ難しさの一つであろう。対して本講座でのデッサン（図 1）は、白用紙を使用せず中間調子色の用紙にデッサンをした。描画材は 2B の黒鉛筆とホワイトペンシルである。描画用紙自体が中間の調子となり、それを境に 2B 黒鉛筆で暗い調子、もう一方の明調子をホワイトペンシルで表現した。講座では最初に暗調子に着目し、二段階の濃淡調子（最も暗い、次に暗い）を 2B 黒鉛筆にて観察描写した。暗部に限定し、2 調子と目安の制限を付けることで、全体を見ると複雑に入り乱れている明暗の調子が分割してとらえやすくなり、視覚的に整理して表現できることを期待したためである。鉛筆の 2B という濃さも、二段階の濃淡調子ならばつけやすい芯の硬度であり、力加減で三～四段階の表現も容易に可能になる。その後にホワイトペンシルにて明調子を暗調子同様、二段階の濃淡調子（最も明るい、次に明るい）を描写した（図 2）。黒鉛筆もホワイトペンシルも描かれていない中間調子用紙部分を含めると、目安上は五段階の調子が出来ているわけだが、実際にはもっと多くの階調（6～8 階調くらい）が観察され表現されていた。明部にはホワイトペンシル、暗部には黒鉛筆と描画材を分け、中間調子の用紙に描画することによって、黒鉛筆のみで白用紙をベースに多くの階調を再現するより、比較的容易にしかも的確に整理をして明暗の調子をとらえられることを確認して講座を終えた。



図 2 明調子を描写しているところ

2016年度(平成28年度) ワークショップ「はじめる絵画講座 ～ 調子を変えて描くデッサン～」開催結果報告

1. 日時 2016年(平成28年)10月22日(土) 13:00～16:00

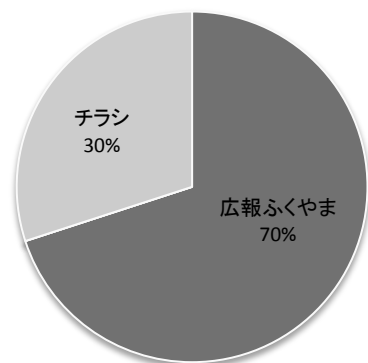
2. 場所 本学 図画工作室

参加者	事前申込(人)	参加(人)	参加内訳			参加率
			事前申込	当日申込	スタッフほか	
	10	11	10	0	1	100%

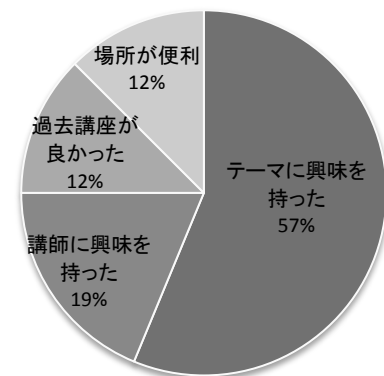
回収(枚)	回収率
9	90%

アンケート項目

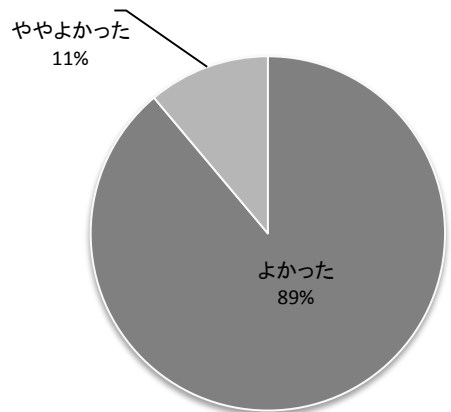
1.この講座を何で知りましたか(複数回答)	
広報ふくやま	7
本学のホームページ	0
友人, 知人	0
公共施設に配布してあるチラシ	3
本学からの郵便でのご案内(DM)	0
その他	0



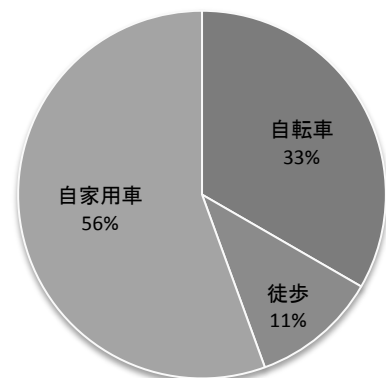
2.この講座になぜ参加しようと思われましたか(複数回答)	
テーマに興味を持ったから	9
講師に興味を持ったから	3
過去に受講した講座が良かったから	2
実施場所が便利だから	2
友人, 知人に勧められて	0
なんとなく	0
その他	0



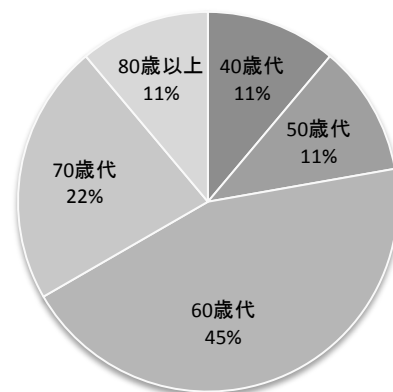
3.この講座を受けてどう思われましたか	
よかった	8
ややよかった	1
あまりよくなかった	0
よくなかった	0



4.来学のおもな交通手段は何でしたか	
路線バス	0
自転車	3
徒歩	1
自家用車	5
タクシー	0
その他	0
JR	(1)



5.年齢	
10歳代	0
20歳代	0
30歳代	0
40歳代	1
50歳代	1
60歳代	4
70歳代	2
80歳以上	1



6.お住まい	
福山市内	8
福山市外	0



日本の伝統文化「こぎん刺繍」の理解と技術の伝承

講師： 山本 百合子（本学非常勤講師）

日時：2016 年（平成 28 年）11 月 1 日（火）、8 日（火）、22 日（火） 10：00～12：00

場所：本学 図画工作室

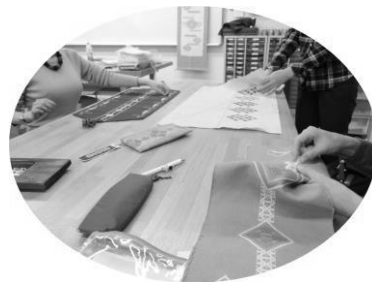
1. 講座の目的

日本の労働着から始まった伝統的な刺繍の一つである「こぎん刺繍」（発祥は津軽地方）を少しでも多くの人に知っていただき、手作りするものの「すばらしさ」、「完成の喜び」、「飾る楽しさ」などの体験を通して、一針一針刺すことにより心豊かな時間を過ごしてもらうことを目的としています。また、手・指を動かすことは子どもにとっては脳の発達を促し、高齢者にとっては脳の活性化にも役立つと言われています。その意味からもこの講座が役立てばと思います。

2. 講座の内容

こぎん刺繍の技法を用いて、テーブルセンター（袋物・ランチョンマット・クッション等）を製作する。

- ① 第 1 日目 刺繍の種類と歴史について。こぎん刺繍について。
材料・図案化の方法と配置について。
こぎん刺繍の基礎技法について実習。
- ② 第 2 日目 テーブルセンター等の製作
- ③ 第 3 日目 縁かがり・その他様々な始末の仕方について。
完成



講座風景

3. まとめ

同様な講座を過去、福山市立女子短期大学で 8 回、福山市立大学で 2012 年に 3 回開講いたしました。その後私の定年退職に伴い終了となっておりましたが大学側の開講要請をいただき、再開いたしました。思いのほか受講希望者が多く、抽選といううれしい結果でした。

一部苦戦された方もいらっしゃったようですが、多くの方はそれぞれ自分なりの図案で楽しく過ごしてくださった様子で、作品も袋物、テーブルセンター、タペストリーと、工夫を凝らしてできあがり喜んでおられました。講座修了後、アンケートをさせていただいた結果、ほとんどの方から「満足・楽しかった・今後も続けたい等」の意見をいただき、日本の伝統文化の継承と皆様の楽しみ・生き甲斐に少しでも貢献できたのではないかと満足しています。来年度も機会をいただけるのであれば開講したいです。



完成した作品

2016年度(平成28年度) ワークショップ「日本の伝統文化「こぎん刺繍」の理解と技術の伝承」開催結果報告

1. 日時 2016年(平成28年)11月1日(火), 8日(火), 22日(火) 10:00~12:00

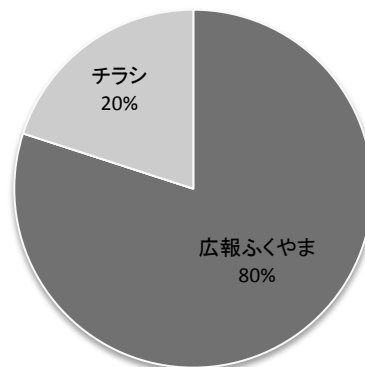
2. 場所 本学 図画工作室

3. 参加者	事前申込(人)	参加(人)	※最終日の人数			参加率
			参加内訳	事前申込	当日申込	
	12	12		11	0	92%

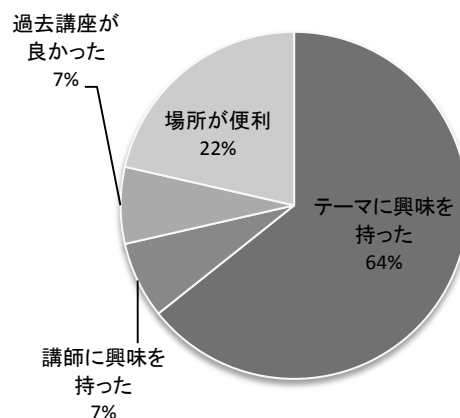
4. アンケート集計結果	回収(枚)	回収率
	10	91%

アンケート項目

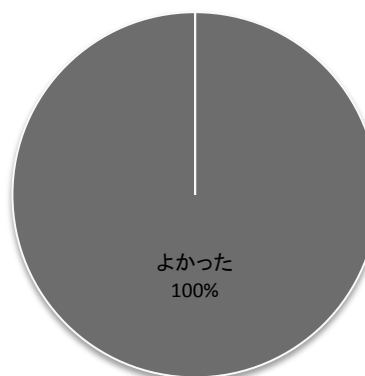
1.この講座を何で知りましたか(複数回答)	
広報ふくやま	8
本学のホームページ	0
友人, 知人	0
公共施設に配布してあるチラシ	2
本学からの郵便でのご案内(DM)	0
その他	0



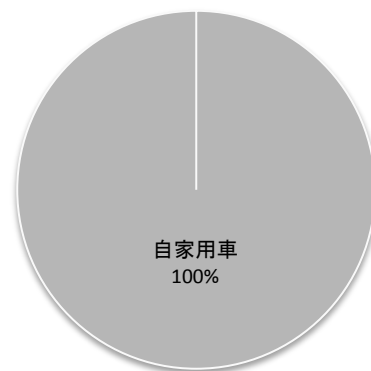
2.この講座になぜ参加しようと思われましたか(複数回答)	
テーマに興味を持ったから	9
講師に興味を持ったから	1
過去に受講した講座が良かったから	1
実施場所が便利だから	3
友人, 知人に勧められて	0
なんとなく	0
その他	0



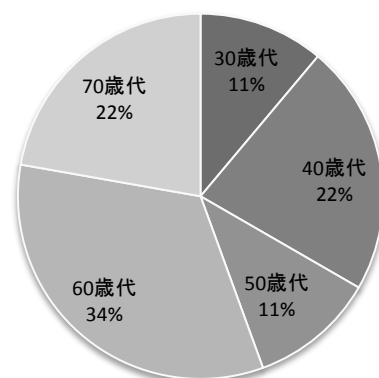
3.この講座を受けてどう思われましたか	
よかった	10
ややよかった	0
あまりよくなかった	0
よくなかった	0



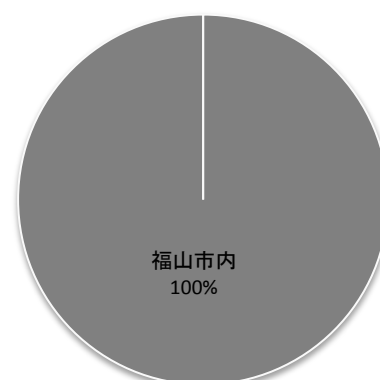
4.来学のおもな交通手段は何でしたか	
路線バス	0
自転車	0
徒歩	0
自家用車	10
タクシー	0
その他	0



5.年齢	
10歳代	0
20歳代	0
30歳代	1
40歳代	2
50歳代	1
60歳代	3
70歳代	2
80歳以上	0



6.お住まい	
福山市内	10
福山市外	0



日本の伝統食品 野菜と乾物でつくる色取り豊かな副食の色々 ～一口知識と調理技術の継承～

講師：倉田 美恵（本学非常勤講師）

日時：2016年（平成28年）11月5日（土） 10：00～13：00

場所：本学 家庭科調理室

目的

私たちの食生活において、野菜は食物繊維の摂取やビタミン類の補給など私たちの健康を維持するために、必要不可欠な食品である。にもかかわらず、厚生労働省「国民健康・栄養調査」（平成27年調査）によると、国民の野菜摂取不足の現状が明らかになっている。

一方、乾物は旨みや栄養を凝縮して生野菜の代用となるばかりか、保存食として手軽に調理できる食品であるが、まだそのメリットが十分に家庭で生かされていないところがある。

そこで、今回はこの二つの食品群を取り込んで、更にはそれぞれの食材特有な色の組み合わせにも配慮して、手軽で色取り豊かで栄養豊富な料理をつくることをめざした。

実施内容

上記の目的を踏まえて次のメニューを実施した。

◆ひじきご飯

色取りは、米の白、ひじきの黒、人参の赤、油揚げの黄を使用。米、油揚げからたんぱく質、カルシウムなど、ひじきからミネラル、食物繊維、人参からはビタミンなどを摂取。

◆お手軽味噌汁

色取りは、昆布、カットわかめ（乾物）の黒、ふ（乾物）の白、味噌の赤、青ねぎの緑を使用。昆布、わかめからカリウム、カルシウム、食物繊維など、ふのたんぱく質、青ねぎ、味噌からはビタミンなどを摂取。

◆鶏ミンチと大根のそぼろ煮

色取りは、鶏ミンチの白、大根の白、パプリカの赤・黄、三つ葉の緑を使用。鶏ミンチからたんぱく質、大根からビタミン、パプリカからビタミン、カロチン、三つ葉からはカルシウム、ビタミンなどを摂取。

◆小松菜とエリンギのごま和え

色取りは、小松菜の緑、エリンギの白、すりごま（乾物）の白を使用。小松菜からはカルシウム、ビタミン、エリンギはカリウム、食物繊維、すりごまからはビタミン、カルシウムなどを摂取。

◆さつま芋の茶巾絞り

色取りは、さつま芋の黄、こしあんの赤を使用。さつま芋、こしあんからは食物繊維などを摂取。



実習の様子と仕上がり作品

成果

参加者の感想を聞く限り、当初の目論みどおり、野菜と乾物のお手軽、色取り豊か、栄養豊富な3点の特徴について認識を新たにしてもらえた。

2016年度(平成28年度) ワークショップ「日本の伝統食品 野菜と乾物でつくる色とり豊かな副食の色々
～ 一口知識と調理技術の継承 ～」開催結果報告

1. 日時 2016年(平成28年)11月5日(土) 10:00～13:00

2. 場所 本学 家庭科調理室

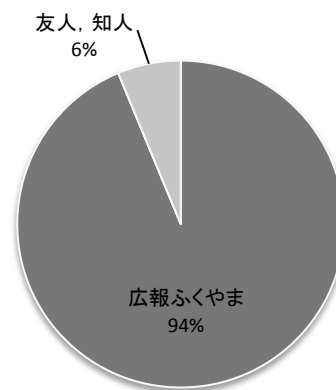
参加者	事前申込(人)	参加(人)	参加内訳			参加率
			事前申込	当日申込	スタッフほか	
	18	17	16	0	1	89%

4. アンケート集計結果

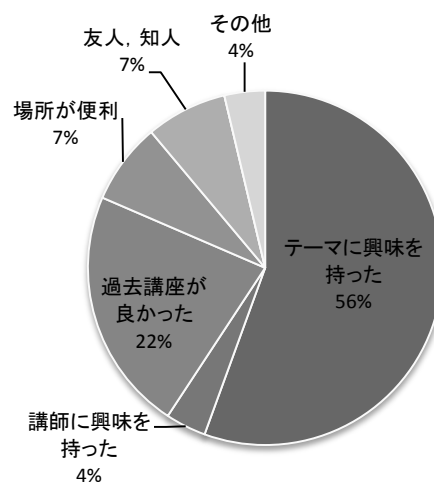
回収(枚)	回収率
16	100%

アンケート項目

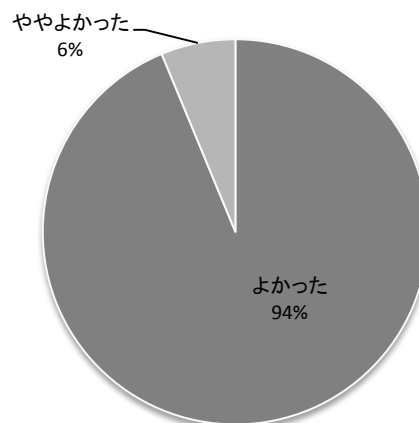
1.この講座を何で知りましたか(複数回答)	
広報ふくやま	15
本学のホームページ	0
友人, 知人	1
公共施設に配布してあるチラシ	0
本学からの郵便でのご案内(DM)	0
その他	0



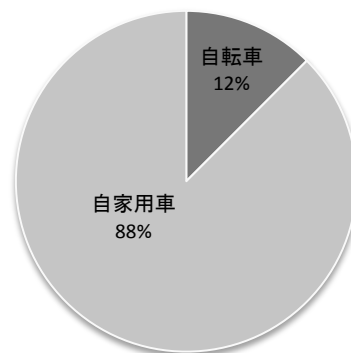
2.この講座になぜ参加しようと思われましたか(複数回答)	
テーマに興味を持ったから	15
講師に興味を持ったから	1
過去に受講した講座が良かったから	6
実施場所が便利だから	2
友人, 知人に勧められて	2
なんとなく	0
その他	1
家族の健康のために	(1)



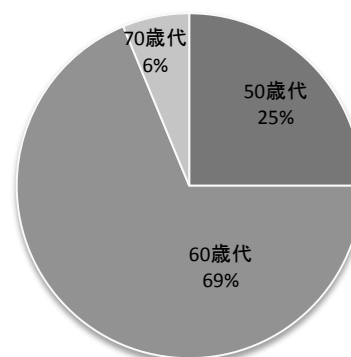
3.この講座を受けてどう思われましたか	
よかった	15
ややよかった	1
あまりよくなかった	0
よくなかった	0



4.来学のおもな交通手段は何でしたか	
路線バス	0
自転車	2
徒歩	0
自家用車	14
タクシー	0
その他	0



5.年齢	
10歳代	0
20歳代	0
30歳代	0
40歳代	0
50歳代	4
60歳代	11
70歳代	1
80歳以上	0



6.お住まい	
福山市内	16
福山市外	0



まちをつくろうワークショップ ～ 店舗の模型を作る ～

講師：高橋 美佳（本学非常勤講師）

日時：2016 年（平成 28 年）11 月 5 日（土） 14：00～17：00

場所：本学 小講義室 B

ワークショップの目的

中学生でも作れる簡単な店舗の模型を作ることにより、楽しみながら建築の内装設計や商業地のあり方を身近に感じてもらうことを目的とした。いざ模型を作ろうとすると、本物の店舗の外観はどうなっているのか、内部はどのように作られているのかをリアルに考えるようになる。そのことによって、まちの中にある様々な店舗に興味を持ってもらい、デザインや建築を見る目を育て、将来に活かせるようになればと思った。特に今回作る模型は個人商店タイプの模型で、個人商店のあり方に目が行くようになればと思った。

ワークショップの内容

最初にやってみたい店舗の種類を参加者にそれぞれ自分で決めさせ、デザインのイメージを考えさせた。事前に切り出して準備していたスチレンボードのセットで簡単な床壁と底を作って箱を作り、ファサードと内部を自由にデザインして作成させた。通常の色画用紙や折り紙の他、様々な色のキャンソンプーパーや美濃和紙の折り紙、アクリルガッシュ絵の具、紙粘土などを用意し、好きな紙を選んでもらって模型を作らせた。特に、底部分は共通で厚みがあり質感も良いキャンソンプーパーを使い、100 円ショップの安い文房具に慣れた今の子どもたちに、上質な紙の良さや種類による微妙な質感の違いを感じてもらえればと思った。本来は外形から全部自由にデザインを考えさせる方が良いが、いきなりは無理な子どももいるだろうし、WS 時間は 3 時間しか無いので、床壁は皆同じにし、自分で考える部分はファサードと内部のみに限定した。

ワークショップの様子

中学生 5 人と小学生 2 人、付き添いの保護者という構成で、特に中学生は大学の講義室の机に座るという事自体が嬉しいらしく、きらきらした目で一生懸命話を聞いていた。あまり難しい事を言ってもわからないだろうと思い、時間も無いのでごく簡単な店舗の話しかしなかったが、もっと専門的な話をした方がかえって喜びそうな様子だった。見本の模型（ブティックとパン屋さん）を見せておくと、見よう見まねで棚やカウンターを自分で作り、棚に載せる商品まで紙粘土などで細かく作っていた。短い時間の中で、自分でデザインを考えるのは難しいかと思ったが、中学生は皆、自分でファサードのショーウィンドウの形を一生懸命考えて、内部を作り込んでいった。中学生がどこまで作れるのかちょっとわからなかったのが、あまり模型についてあれこれ細かい指導はしなかったが、思った以上にとても熱心に細かく作っていたので驚いた。

ワークショップの感想

アンケートに「とても楽しくて久しぶりに細かく作れてうれしかった。」「今までこんなことしたことなくてわくわくしました。またしたいです。」「紙がいろんなのがあり、自分の家ではそろわない材料がたくさんあって、すごいものが作れて楽しかった。」などの感想があったので、概ね喜んでくれたと思う。



デザインのイメージを考え中



模型の作成



ワークショップの様子

2016年度(平成28年度) ワークショップ「まちをつくろうワークショップ ～ 店舗の模型を作る～」開催結果報告

1. 日時 2016年(平成28年)11月5日(土) 14:00～17:00

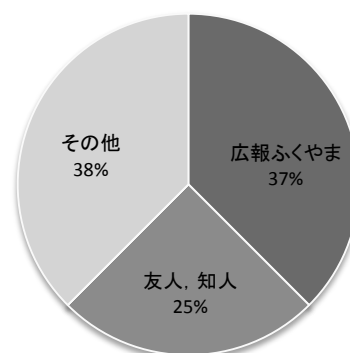
2. 場所 本学 小講義室B

3. 参加者	事前申込(人)	参加(人)	参加内訳			参加率
			事前申込	当日申込	スタッフほか	
	7	8	7	0	1	100%

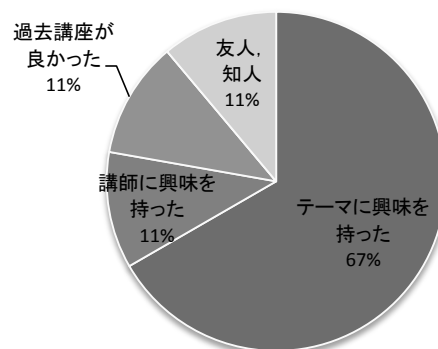
4. アンケート集計結果	回収(枚)	回収率
	7	100%

アンケート項目

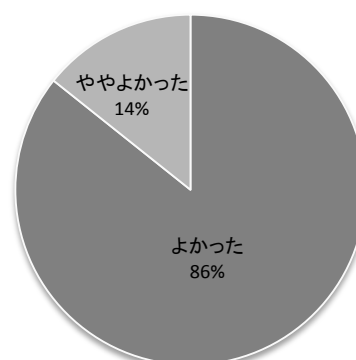
1.この講座を何で知りましたか(複数回答)	
広報ふくやま	3
本学のホームページ	0
友人、知人	2
公共施設に配布してあるチラシ	0
本学からの郵便でのご案内(DM)	0
その他	3
教育研究交流センターの方から聞いて	(2)
家族から聞いて	(1)



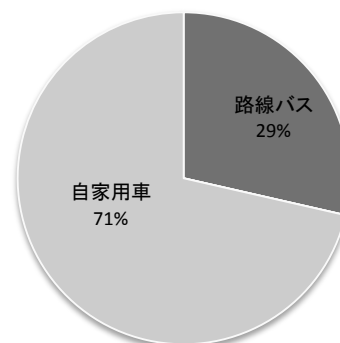
2.この講座になぜ参加しようと思われましたか(複数回答)	
テーマに興味を持ったから	6
講師に興味を持ったから	1
過去に受講した講座が良かったから	1
実施場所が便利だから	0
友人、知人に勧められて	1
なんとなく	0
その他	0



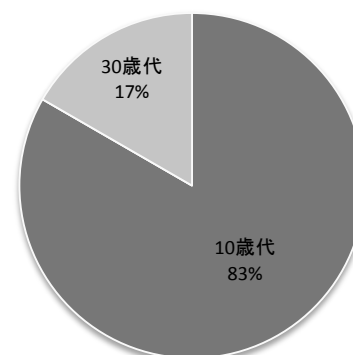
3.この講座を受けてどう思われましたか	
よかった	6
ややよかった	1
あまりよくなかった	0
よくなかった	0



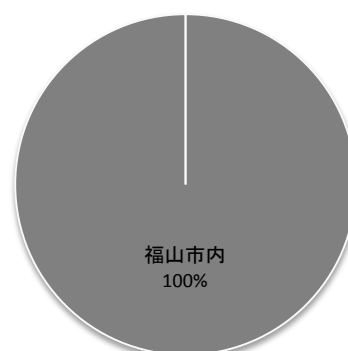
4.来学のおもな交通手段は何でしたか	
路線バス	2
自転車	0
徒歩	0
自家用車	5
タクシー	0
その他	0



5.年齢	
10歳代	5
20歳代	0
30歳代	1
40歳代	0
50歳代	0
60歳代	0
70歳代	0
80歳以上	0



6.お住まい	
福山市内	7
福山市外	0



水域への流入下水および鉄鋼スラグによる水質浄化に関する調査・研究（2015 年度）
スラグによる底質改善事業後の流入下水による水域への影響に関する調査・研究
(2016 年度)

堤 行彦（本学都市経営学部教授）

研究協力者：福山市立大学 堤ゼミ（山崎祥平，中田貴之，阿部祐士）

共同研究期間：2015 年（平成 27 年）4 月 1 日～2017 年（平成 29 年）3 月 31 日

共同研究先：JFE スチール株式会社スチール研究所スラグ・耐火物研究部（広島県福山市鋼管町）



写真 1 鉄鋼スラグ実験

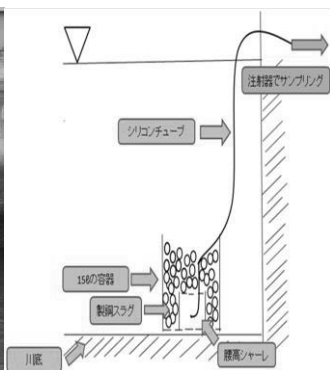


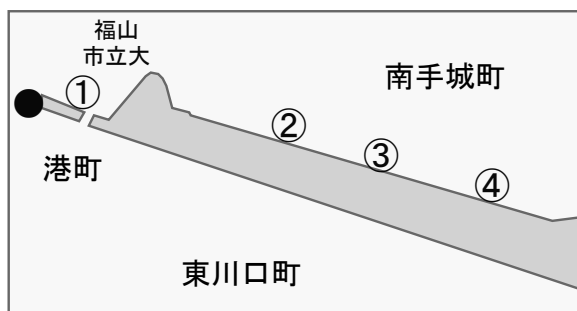
図 1 鉄鋼スラグ実験装置

共同研究の目的と成果

（目的）未処理下水や底泥に由来する悪臭などの環境問題を抱える福山内港では、スラグによる底質改善事業や下水合流改善施設の稼働（内港への未処理下水の放流量削減）の両面で、内港水質環境改善対策が行われている。本研究では、その対策の評価を行うことを主たる目的とした。評価手法は、1) スラグ実験装置(写真 1 及び図 1) による実験データ収集・評価、2) 変化が激しくかつ近隣住民の判断基準となる水面の色や臭いの変化、について行った。

（成果）鉄鋼スラグ実験装置による評価では、富栄養化の原因となるリンや底泥に由来する硫化水素の低減（酸化）が鉄鋼スラグにより可能であることが確認できた。この結果は、スラグによる底質改善効果が期待できることを示すものといえる。

水面の色と臭いでは、図 2 に示す 4 地点で調査を行い、色と臭いの発生頻度（%）の結果を表 1 に示した。2014 年度に比べ 2015 年度で汚濁状況を示す茶や白が減少し清澄さを示す緑が増加、また臭いにおいても 2015 年度で下水臭、硫黄臭が減少し無臭の頻度が大きく増加した。これは下水合流改善施設の稼働が内港改善に寄与したことを示唆している。



※●は排水地点

図 2 色・臭い及び水質調査地点（4 地点 ①～④）

表 1 水面の色と臭いに関する 2014 年度（下水合流改善施設稼働前）と 2015 年度（改善後）の比較

表中の（ ）内が 2014 年度データ

地点	緑		白		茶		黒		測定総数 回数
	回数	%	回数	%	回数	%	回数	%	
地点①	44	44.4(32)	28	28.3(43)	26	26.3(24)	1	1(1)	99
地点②	72	72.7(43)	6	6.1(29)	19	19.2(26)	2	2(1)	99
地点③	72	72.7(46)	6	6.1(28)	19	19.2(25)	2	2(1)	99
地点④	72	72.7(47)	6	6.1(27)	19	19.2(25)	2	2(1)	99

地点	下水臭		磯臭		硫黄臭		無臭		測定総数 回数
	回数	%	回数	%	回数	%	回数	%	
地点①	18	18.2(26)	7	7.1(24)	4	4(7)	70	70.7(43)	99
地点②	9	9.1(12)	15	15.2(31)	2	2(8)	73	73.7(49)	99
地点③	9	9.1(9)	15	15.2(36)	2	2(8)	73	73.7(47)	99
地点④	9	9.1(8)	15	15.2(42)	2	2(8)	73	73.7(42)	99

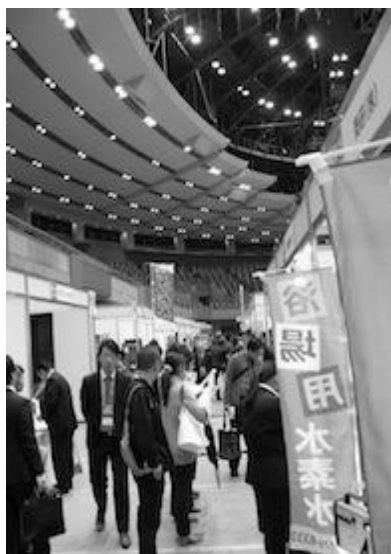
アクリル端材の再利用による壁面・空間装飾技術と アクリル加工技術の開発～2年目の研究活動報告～

渋谷 清（本学教育学部教授）

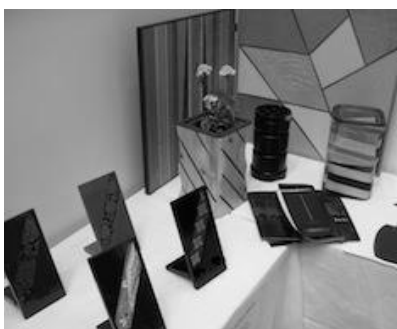
共同研究期間：2015 年（平成 27 年）10 月 1 日 ～ 2016 年（平成 28 年）9 月 30 日

共同研究先：株式会社 大昌 商品開発課（広島県府中市上下町）

■ 共同研究の目的と成果



合同ビジネスフェア 2016 の様子



（株）大昌のブース 製品展示の様子

2014 年 10 月 1 日から始まったこの研究は、継続して 2 年目に入った。共同研究先である株式会社大昌が、これまでに額縁・屏風・衝立・掛軸の製造の分野で長年培ってきた壁面空間装飾の技術に加え、造形デザイン力を協力することで、新しい業種への商品開発を共同で行うことを研究目的とした。そして継続して試作品製作を重ね、検討を加えながら製品化を目指すことと、今年度は特に出来上がった試作品に対する様々な反応・意見を社外から幅広くリサーチすることに重点を置いた。そのため昨年度から参加し始めた各種産業フェアに加えて、共同研究先が、試作品を大量生産ではない市場を意識したいという意向もあって、アート市場での反応を伺った。春から夏にかけて、筆者が行ったアートギャラリーでの展示（Galeria Punto〈4 月・兵庫〉、GALLERY Shiwory〈8 月・岡山〉Shonandai MY Gallery〈9 月・東京〉）の際に、油彩絵画作品に加え、共同で試作品化した屏風仕立てのミニ衝立も展示をした。この試作品は、ガラスミラー上にカラーセロハン等を使って色彩構成を施し、パズミラー風に仕上げたものを三曲～四曲の屏風額装としたものである。来場者からは、絵画作品との違いからか、絵具にはない透明感や反射して様々に見え方が変化する感じが面白い、あるいは壁掛けだけでなく、卓上に置いたり、間仕切りにしたりすることも可能等の意見があった。一方ギャラリー側からは、販売を考えた場合にはファインアート作品との区別が難しく、いわゆる美術品としてではなく、クラフト作品としての価格設定となってしまうこと等が指摘された。第 11 回広島県信用金庫合同ビジネスフェア 2016 へも開発してきた商品をブース出展し、他業種から情報収集を行なった（左図）。この産業フェアには県内国公立大学が、昨年度に比べて多数ブース出展・参加しており、その視察もあわせて実施した。広島県内の企業・大学・機関、計 342 団体がジャンルごとに出展ブースに分けられており、株式会社大昌は「生活・健康」部門での展示となっていた。共同で商品開発をしたアクリル端材を使用したデザイン額縁を始め、他にも独自の木工加工技術を駆使した開発商品が展示され、会場では営業担当が中心となり、他業種との商談、あるいは企業間連携協力及び情報交換が盛んになされていた。注目していた県内国公立大学のブースは「広島創生ゾーン」部門として、企業とは別のエリアに位置づけられていた。全体で 12 校がブース出展しており、各大学の紹介とともに産学連携の活動状況が説明されていた。

ナマズを用いた地域特産品の開発

正保正恵（本学教育学部教授）

共同研究期間：2016 年（平成 28 年）8 月 19 日～2017 年（平成 29 年）2 月 28 日

共同研究先：有限会社 勉強堂（広島県福山市熊野町）

ナマズの商品化のパイオニアである吉川市訪問と本市での開発

(1) 吉川市の現況となまずの歴史

吉川市は、埼玉県の東南部に位置し、平坦な地形をなしており、東は江戸川をはさみ千葉県野田市と流山市に、西は中川をはさんで越谷市・草加市、南は三郷市、そして北は松伏町と境を接している。東西を川が流れているという地の利にあって、なまずとの縁が続いてきたことが想像できる。中川を利用した舟運の発達により、物資の集積地として川と共に栄え、川の文化としての川魚料理が根付いており、「吉川に来て、なまず・うなぎを食わずなかれ」という言葉が残されているように、“なまず”のみではなく“うなぎ”も同時に食されていたことがうかがえる。実際、うなぎ料理店も点在していた。「なまず料理」は伝統的には家庭で食されてきたようだが、そのなかでも「なまずのたたき」といわれるものが有名である。なまずの身を包丁でたたき、味噌などを練りこんで丸めて揚げたものである。

また、なまずのお菓子をはじめ、なまず関連のグッズはすべて駅前にある物産販売店舗「ラッピーランド」で買うことができる。コンテナ 1 つくらいの敷地面積で、交代で 1 名の店員が常駐しており、観光案内所も兼ねている。なまずのお菓子は、和菓子、洋菓子、せんべいなど約 10 種類が売られているが、この中でなまずの粉を原材料に使っているのは、せんべいだけである、ということがわかった。



なまずのたたき



なまずせんべい

(2) 大学での試食・アンケート

本学のサイエンスフェスティバルと学園祭において、都合 2 回の勉強堂スタッフの開発によるナマズ入りの菓子の試食とアンケートを行った。サイエンスフェスティバル（勉強堂が参加）においては、蒸し饅頭とスノーボール（粉砂糖をまぶした丸いお菓子）について、味やネーミングなどのアンケートを行い、学園祭（正保ゼミ主催）においては、チョコレートによる黒い皮の中にカスタードを入れた「シリュール・ノワール」（フランス語で黒いナマズ）についてのアンケートを行った。

結果は、年代別、男女別によって異なったが、それぞれあまり甘い傾向のものには抵抗があるようであった。が、新たな展開によっては、面白いと、多くの関心も垣間見ることができた。



学園祭の準備

■2016年度(平成28年度)活動記録

2016年(平成28年)

- | | | |
|-----|--------|--|
| 4月 | 13日(水) | 第1回教育研究交流センター運営委員会 |
| 5月 | 14日(土) | 特別講演会「島田荘司・知念実希人 対談会」 |
| | 21日(土) | 特別企画「びんご圏域6大学の2015年度人気講座紹介」 |
| | 25日(水) | 第2回教育研究交流センター運営委員会 |
| 6月 | 18日(土) | 公開講座 知の実践①「巨大地震の巣 南海トラフを解剖する」 |
| | 22日(水) | 第3回教育研究交流センター運営委員会 |
| 7月 | 9日(土) | 公開講座・国際交流「国際協力の現場から学んだ「支援しない支援」
～ 南アジア・東アフリカで実践した対話型のファシリテーション技術
そして 南の国の支援されるおばちゃんたちの本音と建前の見分け方 ～ |
| | 16日(土) | 公開講座 知の実践②「源平合戦と瀬戸内」 |
| | 27日(水) | 第4回教育研究交流センター運営委員会 |
| | 30日(土) | ワークショップ「ふくやまの伝統芸能「二上りおどり」 |
| 8月 | 6日(土) | 公開講座 知の実践③「新しい交通政策「モビリティ・マネジメント」と福山市における取り組みの紹介」 |
| 9月 | 24日(土) | 2016ふくやまサイエンスフェスティバル |
| | 28日(水) | 第5回教育研究交流センター運営委員会 |
| 10月 | 8日(土) | ワークショップ「Practical activities and teaching ideas for active English communication classes!」 |
| | 15日(土) | 公開講座 知の実践④「ミャンマーにおける高等教育と産業人材育成の課題と可能性」 |
| | 22日(日) | ワークショップ「ヨガ」(～10月29日) |
| | | ワークショップ「はじめる絵画講座 ～ 調子を変えて描くデッサン ～」 |
| | 26日(水) | 第6回教育研究交流センター運営委員会 |
| 11月 | 1日(火) | ワークショップ「日本の伝統文化「こぎん刺繍」の理解と技術の伝承」(～11月22日) |
| | 5日(土) | ワークショップ「日本の伝統食品 野菜と乾物でつくる色とり豊かな副食の色々 ～ 一口知識と調理技術の継承 ～」 |
| | | ワークショップ「まちをつくらうワークショップ ～ 店舗の模型を作る ～」 |
| | 19日(土) | 公開講座 知の実践⑤「絵本と紙芝居の作り方」 |
| | 30日(水) | 第7回教育研究交流センター運営委員会 |
| 12月 | 1日(木) | 特別講演会「自動車の倫理学 ― 都市・生活空間の変貌, 利己主義の肥大」 |
| | 10日(土) | 公開講座 知の実践⑥「入院中の子どもと家族をサポートするチャイルド・ライフという仕事」 |

2017年(平成29年)

- | | | |
|----|--------|--|
| 1月 | 25日(水) | 第8回教育研究交流センター運営委員会 |
| 2月 | 22日(水) | 第9回教育研究交流センター運営委員会 |
| 3月 | 4日(土) | さよなら・公開講座「福山市のローズマインドとは ― 「百万本のバラ」誕生の秘話」 |
| | 15日(水) | 第10回教育研究交流センター運営委員会 |

参 考 資 料

■福山市立大学教育研究交流センターの概要

1. 目的

教育研究交流センターでは、全学の協力のもと、大学が有する知的資源を活用し、地域交流及び生涯学習等に関する調査・研究並びに教育事業を行うとともに、地域連携及び国際交流等に関する取組を推進し、本学の教育研究並びに地域社会の発展に寄与します。

2. 業務内容

教育研究交流センターは、公開講座などの学外向け事業の企画・立案を行うとともに、地域課題と研究内容を結び付ける窓口として、各種の相談業務を行います。

1) 地域交流事業

大学施設の一般公開事業など、地域に広く門戸を開放し、地域に親しまれ信頼される大学をめざします。

さらに、都市型キャンパスの好立地を生かし、様々な社会の担い手が集い、語り、共に学ぶ環境づくりを進めます。

2) 公開講座、連携事業、ワークショップ

地域に関わる関心や興味深いテーマを様々な側面から取り上げる講演会を開催します。また、少人数で参加型のワークショップを開講します。

「びんご圏域」の大学等の連携を基盤に、地域の抱える問題の解決や、アウトリーチ活動をより発展させるため、圏域内の連携を図ります。

3) 受託研究・共同研究事業

大学教員や研究者のノウハウや蓄積を社会に還元していくため、地域のシンクタンクとしての機能の充実をめざします。

地域や産業界、行政などのニーズ(課題)の情報収集・分析を行うとともに、本学の研究機能とをマッチングさせる窓口になります。

4) 国際交流事業

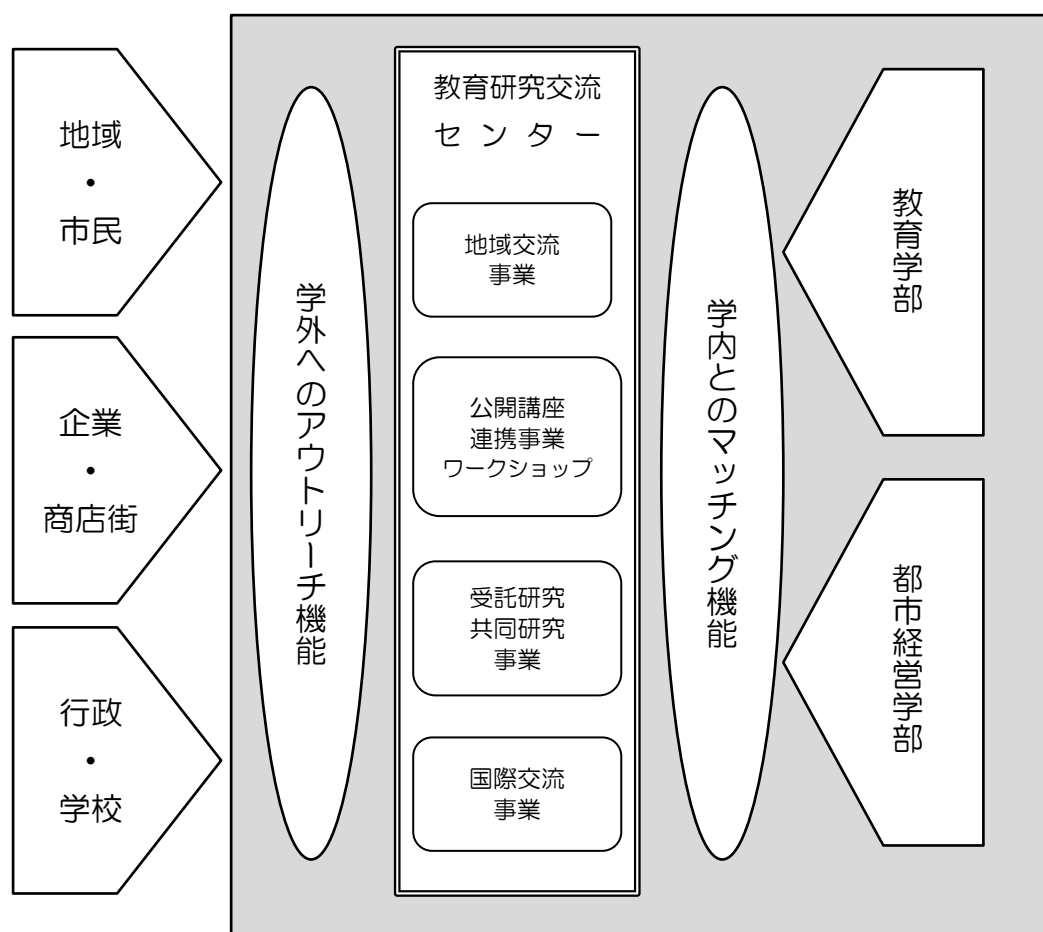
海外の教育機関との連携交流を推進し、学術の向上と地域貢献に寄与します。

3. 所在地

福山市港町二丁目 19 番 1 号

福山市立大学内 管理棟 1 階

4. 概念図



福山市立大学教育研究交流センター規程

平成23年4月1日

福山市立大学規程第66号

改正 平成26年2月17日規程第5号

改正 平成27年2月17日規程第25号

改正 平成28年2月19日規程第2号

(設置)

第1条 この規程は、福山市立大学学則（平成23年規則第1号）第4条第1項第2号の規定に基づき、福山市立大学教育研究交流センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、全学の協力のもと、福山市立大学（以下「本学」という。）が有する知的資源を活用し、地域交流及び生涯学習等に関する調査・研究並びに教育事業を行うとともに、地域連携及び国際交流等に関する取組みを推進し、もって本学の教育研究並びに地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の業務を行うものとする。

- (1) 地域交流に関する事項
- (2) 公開講座等の生涯学習事業に関する事項
- (3) 受託研究及び共同研究に関する事項
- (4) 国際交流に関する事項
- (5) その他センターの目的を達成するために必要な事項

(組織)

第4条 センターにセンター長その他必要な職員を置く。

- 2 センター長は、センターの業務を統括するものとし、本学の専任教員のうちから、学長が指名する。
- 3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営委員会)

第5条 センターに運営委員会を置き、次に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの業務に関する重要事項
- (2) センターの管理運営に関する事項
- (3) その他センターに関する重要事項

第6条 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 教育学部教員 2人
- (3) 都市経営学部教員 2人
- (4) 総務課職員 1人

(委員長等)

第7条 運営委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は、センター長をもって充てる。

3 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

4 副委員長は、委員長が指名する。

5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

6 運営委員会は、委員総数の半数以上の委員が出席しなければ、会議を開くことができない。

7 議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第8条 委員長が必要と認めるときは、委員会の会議に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務)

第9条 センターの事務は、事務局総務課において処理する。

(委任)

第10条 この規程に定めるもののほか、センターの運営に関して必要な事項は、センター長が定める。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

福山市立大学教育研究交流センター 年報

vol.6 2016

発行日	2017 年(平成 29 年)3 月 30 日
発行・編集	福山市立大学教育研究交流センター 〒721-0964 広島県福山市港町二丁目 19 番 1 号 TEL(084)999-1115 FAX(084)928-1248 E-Mail:koryu@fcu.ac.jp URL: http://www.fcu.ac.jp/
印刷所	かもめいと有限会社 〒720-2412 広島県福山市加茂町下加茂 179 TEL(084)972-2861 FAX(084)972-2641



FUKUYAMA
CITY
UNIVERSITY